

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0001	0	1	第一号 錦霞帖	[松川敏胤(詩仏耶)揮毫](書)	1	14	1921	10	17	大正	10	—	「錦霞淡」。	詩仏耶敏題 [印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】陸軍大将 詩仏耶敏松川敏胤閣下/大正十年十月十七日	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	2	第一号 錦霞帖	[本多日生揮毫](書)	—	—	1921	10	—	大正	10	—	「我此土安穩/天人常充/満園林諸堂/閣種々寶荘/巖」。	大僧正日生(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】日蓮宗大僧正 本田日生猥下/全年十月	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	3	第一号 錦霞帖	[内野辰次郎揮毫](書)	—	—	1921	12	22	大正	10	—	「後楽」。	太白山[印・辰次郎書][印・太白山]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】第七師団長 太白山内野辰次郎閣下/全年十二月廿二日	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	4	第一号 錦霞帖	[本田幸介揮毫](書)	—	—	—	—	—	大正	10代	カ	「争先非吾事/静照在忘已」。	幸介	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】東京帝室林野管理局長 本田幸介殿	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	5	第一号 錦霞帖	[荻生天泉揮毫](画)	—	—	—	—	—	大正	10代	カ	蝶の絵を描く(書画)	天泉(印・天泉)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】画家 荻生天泉殿	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	6	第一号 錦霞帖	[広岡宇一郎揮毫](書)	—	—	—	—	—	大正	10代	カ	「先生知何意撫/孤松盤桓 先生/咲不荅撫孤/松盤桓/録口(秋カ)子醇之詩」。	星陵居士恭[印・廣岡宇一郎][印・星陵真口]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】政友会幹事長 星陵居士 廣岡宇一郎殿	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	7	第一号 錦霞帖	[茅原華山揮毫](書)	—	—	—	—	—	大正	10代	カ	「口(州・沙・河?)似波濤万里/口(連カ)駱駝出沒小(カ)口(于カ)/船日於已落口/雪(カ)外冰鑑光涵/口(斬カ)道天/雪(カ)宜改廬/遊阿弗利加沙漠口(道カ)作」。	茅原華山[印・茅原氏印][印・華山]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】内親主筆 茅原華山殿	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	8	第一号 錦霞帖	[丹波敬三揮毫](書)	—	—	1923	—	—	大正	12	—	「安心者/萬(万)病之/薬」。	丹波敬三(印・丹波)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】同仁会副会長 薬学博士 丹羽(ママ)敬三殿	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	9	第一号 錦霞帖	[徳富蘇峰揮毫](書)	—	—	1922	8	29	大正	11	—	「直入千/峰萬/峯/去落花/流水太/茫々」。末尾に「大正壬戌八月/於登別温泉」と記す。	蘇峯外史[印・菅原正敬][印・蘇峯]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】国民新聞社長 徳富蘇峰/大正十一年八月廿九日	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	10	第一号 錦霞帖	[国府犀東揮毫](書)	—	—	1922	9	15	大正	11	—	「一宵蘭浴玉成/膚野嬢換身無/不殊要智愈明来/洗垢温泉未嘗別/賢愚/登別旗樓浴口」。	犀東[印][印・犀東]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大国学者 国府犀東殿/大正十一年九月十五日	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	11	第一号 錦霞帖	[山田弘倫揮毫](書)	—	—	1924	—	—	大正	甲子(大正13)	—	「僅時 眠/渴時 飲/酔時 謳」。末尾に「大正甲子於登別温泉」と記す。	龍山 弘倫	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】陸軍中將 龍山 山田弘倫閣下	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	12	第一号 錦霞帖	[長岡外史揮毫](書)	—	—	—	夏	—	—	甲子(大正13)	—	「涙香口(ネ+寸?=射カ)口蠻花/新亜口(漕カ)山(カ)淡口(金カ)/月親為是樺所(カ)/請口(戦カ)地豈可返/附没情人」。末尾に「甲子夏日樺太客中」と記載あり。	藤堂外史[印・陸軍中將][印・長岡外史]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全上 長岡外史閣下	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	13	第一号 錦霞帖	[国司伍七揮毫](書)	—	—	1924	秋	—	大正	13	—	「誠実是道」。末尾に「大正十三年秋」と記す。	国司中将[印][印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】第七師団長 陸軍中將 国司閣下	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0001	0	14	第一号 錦霞帖	[大木天籟(遠吉)揮毫](書)	—	—	1924	8	24	大正	13	—	「雲行雨施」。	天籟[印・天籟][印・大木遠]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】元司法大臣 伯爵 大木天籟閣下/大正十三年八月廿四日	折本。包紙収納(表書「第一号 錦霞帖」、裏書「登別温泉軌道会社石川脩次」))。
0002	0	1	第二号 明月帖	[清浦奎吾揮毫](書)	1	16	1925	初頭	—	大正	14	—	「浩気拡充無内外」。	奎堂[印・清浦奎吾][印・奎堂]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年初頭(京極子爵ヨリ御依頼)枢密院議長 子爵 清浦奎吾閣下	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	2	第二号 明月帖	[柳原義光(華山)揮毫](書)	—	—	1924	—	—	大正	13	—	「清風明月是吾家」。	華山義光[印・柳原義光之章][印・華山仙閣]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全十三年御来泉/伯爵 柳原義光閣下	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0002	0	3	第二号 明月帖	[伏原宣足揮毫] (短歌)	－	－	1925			大正	14	－	最初に「春灯」と句題を記す。「庭桜さきそめ/しよりともし火の/はなものとかに/匂ふ夜半かな」。	正二位宣足	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全十四年 (京極子爵ヨリ御依頼)/子爵伏原閣下	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	4	第二号 明月帖	[青木信光(新峰)揮毫] (書)	－	－	1923	夏	－	癸亥(大正)	(12)	－	「徳星開寿域」。末尾に「癸亥夏日」と記す。	新峰	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全十三(癸亥ではないため「十二」の誤り)か)年八月十五日来泉/新峯 子爵青木信光閣下	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	5	第二号 明月帖	[牧野忠篤(華堂)揮毫] (書)	－	－	1923	8	(15)	(大正)	(癸亥、12)	－	「人生貴自由」。末尾に「癸亥八月」と記す。	華堂	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十三(癸亥ではないため「十二」の誤り)か)年八月十五日御来泉/華堂 子爵牧野忠篤閣下	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	6	第二号 明月帖	[八條隆正(霞香)揮毫] (書)	－	－	1923	夏(8)	(15)	(大正)	癸亥(12)	－	「心静興長」。末尾に「癸亥夏日」と記す。	霞香	(石川脩次)	(前述は青木信光) 【巻頭の芳名録】全上((癸亥ではないため大正十二年)) 霞香 子爵 八條隆正閣下	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	7	第二号 明月帖	[小松謙次郎(桜東)揮毫] (書)	－	－	1923	－	－	(大正)	(12)	か	「清風明月」。	櫻東	(石川脩次)	(前述は牧野忠篤) 【巻頭の芳名録】全上(大正十二)) 桜東 全 小松謙次郎閣下	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	8	第二号 明月帖	[土岐嘉平揮毫] (書)	－	－	1924	－	－	大正	13	か	「寿而康」。	□	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十三年御来泉/北海道庁長官 土岐嘉平殿	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	9	第二号 明月帖	[京極高備揮毫] (書)	－	－	1926	－	－	大正	丙寅(15)	－	「□月雲払」。末尾に「大正丙寅歳」と記す。	京極峰雲[印・峰雲]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四(丙寅ではないため「十五」の誤り)か)年初頭/子爵京橋(極カ)高備閣下	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	10	第二号 明月帖	[大木遠吉揮毫] (書)	－	－	1926	初春	－	(大正)	丙寅(15)	か	「人間一夜困春風」。末尾に「丙寅初春」と記す。	天籟[印・天籟][印・大木遠]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年初頭 (京極子爵ヨリ依頼)/伯爵 大木遠吉閣下	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	11	第二号 明月帖	[永田秀次郎(青嵐)揮毫] (俳句)	－	－	1926	－	－	大正	15	－	「高燈籠/夜な／＼(※夜な)月の/ありところ」。	青嵐	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十五年来泉 /元東京市長 青嵐 永田秀次郎殿	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	12	第二号 明月帖	[山内多聞揮毫] (画)	－	－	1927	8	17	昭和	2	－	水墨画(花鳥図)。末尾に「昭和二年八月十七日於登別温泉客舎 多門筆」と記す。	多門	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和二年七月十七日来泉/帝展委員 画家 山内多門殿	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	13	第二号 明月帖	[山口弘達(蕙石山人)揮毫] (書画)	－	－	1924	初秋	－	(大正)	甲子(13)	か	竹の水墨画。賛:琅玕森満砌挺々弄清妍/勁節真君子何曾待七賢。末尾に「甲子初秋」と記す。	蕙石山人(印・弘達)[印・蕙石]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年初 (京極子爵ヨリ依頼)/子爵 山口 閣下	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	14	第二号 明月帖	[澤田牛麿揮毫] (画)	－	－	1927	7	29	昭和	2	－	アザミとバツタの水彩画。。紙本著色。	潮江	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和二年七月廿九日来泉/北海道庁長官 澤田牛麿殿	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	15	第二号 明月帖	[河東碧梧桐揮毫] (俳句)	－	－	1927	7	28	昭和	2	－	「独帰る道すがら乃桐乃花おち」。	碧	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全年七月廿八日来泉/俳人 河東碧梧桐殿	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。
0002	0	16	第二号 明月帖	[金谷範三揮毫] (書)	－	－	1931	夏(8)	(18)	昭和	6	－	「至誠従事」。末尾に「昭和六年夏」と記す。	金谷	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和六年八月十八日来泉/陸軍参謀総長 金谷大将閣下	折本。裏表紙の見返しに「北海道登別温泉在住 石川脩次」(墨筆)、押印[北海道登別温泉 梅洞石川修次]あり。包紙収納。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0003	0	1	第三号 諦躅帖	[堀内文次郎(信水)揮毫](俳句)	1	15	1925	9	16	大正	14	—	陸軍中將・堀内文次郎の揮毫。「地獄にも高く笑ふや伊蘇つゝし」。	信水[印・堀内文印][印・信水]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年九月十六日来泉/陸軍中將堀内信水閣下	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	2	第三号 諦躅帖	[尾崎行雄揮毫](短歌)	—	—	1925	—	—	大正	14	か	革新倶楽部幹事・尾崎行雄の揮毫。「幾色乃/地獄な/かめて思ふ/かな/我行先ハ/何れなるらむ」。	雄	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】革新倶楽部幹事 尾崎行雄殿	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	3	第三号 諦躅帖	[菅原寿仙(時保)揮毫](書)	—	—	1925	6	13	大正	14	—	建長寺管長・曇華・菅原禅師の揮毫。「口(奇カ)幽(カ)」。	曇華[印][印・曇華]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年六月十三日 建長寺管長 曇華 管(ママ)原禅師 祝下	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	4	第三号 諦躅帖	[小山忠雄揮毫](漢詩)	—	—	1925	—	—	大正	14	か	北海道自治講習所長・小山忠雄の揮毫。「楼(カ)外(カ)口空暁/雪晴千峯紫/翠入窓明閑/来訪与吾意/我一口(独カ)茶煙/幽鳥声」。	鳳山[印][印・鳳山]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】北海道自治講習所長 鳳山 小山忠雄殿	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	5	第三号 諦躅帖	[藤本来仙揮毫](画)	—	—	1925	9	-	大正	14	頃	藤本来仙の揮毫。伊勢海老の図(周りに貝と海藻)。紙本著色。	来仙[印・来仙麦石]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年九月頃/画伯 藤本来仙殿	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	6	第三号 諦躅帖	[水野鍊太郎揮毫](漢詩)	—	—	1925	6	27	大正	14	—	元内務大臣・水野鍊太郎の揮毫。「北陸風色久/関情山影水/声依旧情/短(カ)駅長辛幾/千里経綸到处/説縦横」。	香堂	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年六月二十七日/元内務大臣 香堂 水野鍊太郎 閣下/水野閣下作詩 北陸風色久関情、山影水口依旧情/短駅長亭幾千里、経綸到处説縦横	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	7	第三号 諦躅帖	[杉村楚人冠揮毫](俳句)	—	—	1925	9	—	大正	14	頃	東京朝日新聞顧問・杉村楚人冠の揮毫。「湯の宿に山うとの香をなつかしむ」	楚	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年九月頃/東京朝日新聞顧問 杉村楚人冠殿	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	8	第三号 諦躅帖	[馬場孤蝶揮毫](書画)	—	—	1925	—	—	大正	14	か	文豪・馬場孤蝶の揮毫。三味線の画、賛「恋をするなら/あの大地獄/胸之底から/燃えてみよ」。	孤蝶[印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】文豪 馬場孤蝶殿	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	9	第三号 諦躅帖	[諸井華畦(久楽)揮毫](書)	—	—	1925	夏	—	(大正)	乙丑(14)	—	明治書道会教授・諸井華畦(久楽)の揮毫。「水能性澹/為吾友竹/解心虚是/我師」(白居易作)。末尾に「乙丑夏日登別温泉客中書」と記す。	華畦女史[印・諸井久楽][印・華畦]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】明治書道会教授 華畦 諸井久楽女史 殿	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	10	第三号 諦躅帖	[西川義方揮毫](短歌)	—	—	1925	-	-	大正	14	か	医学博士・西川義方の揮毫。「くろすめるならのゆふちに 手を かけて 落つる ゆのとに こゝろすませり」。	義方	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】元明治大帝侍医医学博士 西川義方殿	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	11	第三号 諦躅帖	[藤本来仙揮毫](画)	—	—	1925	9	-	大正	14	-	藤本来仙の揮毫。山の風景画。紙本著色。	来仙[印・来][印・山]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年九月頃/画家 藤本来仙殿	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	12	第三号 諦躅帖	[境孫四郎揮毫](書)	—	—	1925	9	-	大正	14	—	陸軍少将・境孫四郎の揮毫。「積慶重/暉養正/我建国/之精神/也」。末尾に「大正十四年壮九月」と記す。	境	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年九月十九日(曾田陸軍工兵 監ト来泉)/陸軍少将 境 孫四郎閣下	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	13	第三号 諦躅帖	[中村啓次郎揮毫](書)	—	—	1926	秋	-	大正	丙寅(15)	-	政友本党顧問・中村啓次郎の揮毫。「雲高気静」。末尾に「大正丙寅秋日」と記載。	十八洲[印・啓印][印・木州]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十五年来泉(九月一日)/政友「会」(抹消)本党顧問 木州 中村啓二郎殿	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0003	0	14	第三号 諦躅帖	[北澤楽天揮毫](書画)	—	—	1926	9	-	大正	15	か	漫画家・北澤楽天の揮毫。達磨の水彩画。賛「兎角浮世はなとゝ申を(越)/野暮天/口へく口/かしく」。	楽天(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全年来泉 漫画家 北澤楽天殿	折本。包紙収納(表書「第三号 諦口(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0003	0	15	第三号 諦躅帖	[渡辺錠太郎揮毫] (書)	—	—	1929	3	25	昭和	4	—	前第七師団長・航空局長・渡辺錠太郎の揮毫。「清風明月」。	渡辺錠[印・渡邊]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和四年三月廿五日来泉(愛知県西春日井郡/岩倉出身)/前第七師団長/航空局長ニ栄転赴任ノ途 渡邊錠太郎閣下	折本。包紙収納(表書「第三号 諦躅(言遍に蜀)帖」(墨筆)、裏書「北海道登別温泉 石川脩次(印)」)。
0004	0	1	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[加藤寛治揮毫] (書)	1	14	1932	7	22	昭和	7	—	海軍参議官・海軍大将・加藤寛治の揮毫。「一心一気(カ)」。	華舟[印・加藤寛治]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和七年七月廿二日来泉/海軍参議官 海軍大将 加藤寛治閣下	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川脩次」と記載(墨筆))。
0004	0	2	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[モレイラ夫妻揮毫](サイン)	—	—	1928	9	28	昭和	3	か	モレイラ夫妻それぞれの揮毫(ペン)。写真(モノクロ)の貼付あり。添書「南米ブラジルに於ける親日家の/題目(国賓)モライラ医学博士/夫妻昭和三年九月二十八日来泉/湯元地獄谷にて記念撮影/前列中央 モライラ博士/向て右 全夫人/※以下、揮毫の意識を記載(全て黒ペン)	Julian Moreira・Augusta P.Moreira	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】親日家米国人医学博士モレイラ夫妻殿	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川脩次」と記載(墨筆))。
0004	0	3	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[大谷(句仏上人)光演揮毫](俳句)	—	—	1932	7	22	昭和	7	か	真宗法主・句仏上人・大谷光演の揮毫。「登別温泉/雨をよひ/温泉靄/濃くなる/すゝきかな」。	句仏	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】新宗法主 句仏上人 大谷光演猊下	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川脩次」と記載(墨筆))。
0004	0	4	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[川端玉雪揮毫] (画)	—	—	1932	7	22	昭和	7	か	山水画。	玉雪[印・玉雪]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】画家 玉章子息 川端玉雪殿	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川脩次」と記載(墨筆))。
0004	0	5	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[櫻井忠温揮毫] (書画)	—	—	1931	5	29	昭和	6	—	夫婦岩図 賛:(左上)桃李杏春風一家/(左下)夫婦岩	忠温(花押・桜)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和六年五月廿九日来泉(桃李杏春風一家)/肉弾少将 桜井忠温閣下	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川脩次」と記載(墨筆))。
0004	0	6	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[野上大業揮毫] (画)	—	—	1931	5	—	昭和	6	—	犬図。紙本著色。	大業(印・大業)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和六年来泉/画家 野上大業殿	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川脩次」と記載(墨筆))。
0004	0	7	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[萩原井泉水揮毫] (俳句)	—	—	1931	6	6	昭和	6	—	「桜雨の(カ)/すこし/夕や/けなるハ/えそ/富士とや」。	井泉	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和六年六月六日来泉(鎌倉材木座/光明寺上)/俳人 萩原井泉水殿	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川脩次」と記載(墨筆))。
0004	0	8	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[久留島武彦揮毫] (書)	—	—	1930	初冬		昭和	庚午(5)	—	「明治天皇/御製/思ふと/うちつけに/いふ、幼児の/ことはゝやかて/歌にそありける」。末尾に「昭和庚午初冬」と記す。	口武彦[印・久留島氏][印・武彦]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和五年来泉/童話家 久留島武彦殿	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川脩次」と記載(墨筆))。
0004	0	9	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[南次郎(豊山)揮毫](書)	—	—	1931	初夏(7)	(7)	昭和	6	—	「誠意奉公」。末尾に「昭和六年初夏」と記載。	南[印・南次郎][印・豊山]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和) 六年七月七日来泉/陸軍大臣 陸軍大将 南次郎閣下	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川脩次」と記載(墨筆))。
0004	0	10	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[寿山揮毫](書)	—	—	1931	壮(8)	(17)	昭和	辛未(6)	—	「温泉水/從(カ)口瀨/口」。末尾に「昭和六年未壮月」と記す(壮月は旧暦8月の異称)。	寿山	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和6)年八月十七日来泉/東大名 菅教授 理学博士 脇水鎮五郎殿	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川脩次」と記載(墨筆))。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0004	0	11	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[雲崖揮毫](書画)	—	—	1931	初秋	—	(昭和)	辛未(6)	—	風景画。紙本著色。 賛:悠々□□第一春金衣公子已□□。末尾に「辛未初秋/於北門(もしくは「の」カ)靈泉/題之」と記載。	雲崖[印・雲崖]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和6年)来泉画家 関谷雪崖殿	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川修次」と記載(墨筆))。
0004	0	12	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[畑俊六揮毫](書)	—	—	1931	初秋(9)	(12)	昭和	6	—	「晴空一碧/心境爽」。	畑 俊六	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和六年九月十二日来泉/陸軍砲兵中將砲兵監 畑俊六閣下	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川修次」と記載(墨筆))。
0004	0	13	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[歌川国峰揮毫](画)	—	—	1931			昭和	6	—	法衣を着た狸が茶釜に向かう様子。「分福茶釜」を題材にした画か。	国峰[印・歌川](印・国峯)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和6年)来遊/浮世絵画家 国重孫 歌川国峯殿	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川修次」と記載(墨筆))。
0004	0	14	第四号 芳墨帖(千山萬岳)	[佐藤子之助(暘カ)東)揮毫](書画)	—	—	1932	3	20	昭和	7	—	達磨図 賛:海枯終見/底人死不/知心	暘(カ)東(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和七年三月二十日来泉/第七師団長陸軍中將 佐藤子之助閣	折本。帳面の題は「千山萬岳」。帙収納(題箋「第四号 芳墨帖」、裏書に「北海道登別温泉 石川脩次」と記載(墨筆)、内側中央に「北海道登別温泉 軌道株式会社 石川修次」と記載(墨筆))。
0005	0	1	第五号 翰墨遊戯	[武田霞洞(白)揮毫](漢詩・書)	1	14	1932	3	—	昭和	7	—	「清坐使人/無俗氣虛/堂尽日転/温風」。	霞洞仙史白[印・武田白印][印吉夫]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和七年三月書家 武田 霞洞先生	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。
0005	0	2	第五号 翰墨遊戯	[木俣曲水揮毫](書)	—	—	1931	—	—	昭和	6		「林下有/清福塵/中無悟/人」。	曲水[印][印・曲水]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和六年来泉書家 木俣曲水殿	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。
0005	0	3	第五号 翰墨遊戯	[鹿江三郎(鹿峰)揮毫](書)	—	—	1931	—	—	昭和	6		「自強/不息」。	鹿峰(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和6年)三笠保存会/名誉参与海軍少將 鹿江三郎閣下	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。
0005	0	4	第五号 翰墨遊戯	[馬場孤蝶揮毫](書画)	—	—	1931	—	—	昭和	6~7	か	女性が横たわっている画か。紙本著色。 賛:恋/之/勝鬨/男の/こゝろ/勝ちて/うれしき/子宝湯	孤蝶[印・孤蝶]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】文豪 馬場孤蝶殿	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。
0005	0	5	第五号 翰墨遊戯	[尾上柴舟揮毫](短歌)	—	—	1931	—	—	昭和	6	—	地獄谷にて/わきくるふ/ゆかま(湯釜)に/うつるみちミレは/かゝる/ところも/人ゆきに/けり	[印・柴]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和6年)文学博士/歌人書家 尾上柴舟殿	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。
0005	0	6	第五号 翰墨遊戯	[歌川国峰揮毫](画)	—	—	1931	—	—	昭和	6	—	着物の女性が頬杖をついて本を読む図。	国峰[印・歌川][印・国峯]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和6年)画家 歌川国峯殿	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。紙本著色。
0005	0	7	第五号 翰墨遊戯	[河野董吾揮毫](書)	—	—	1932	孟春(3)	(10)	昭和	7	—	山靈/来浴。末尾に「昭和七年孟春」と記す。	董五(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和)七年三月十日来泉/大湊司令官海軍少將 河野董吾閣下	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。
0005	0	8	第五号 翰墨遊戯	[島田達治揮毫](画)	—	—	1932	10	—	昭和	辛未(7)	—	竹図 賛:□府(カ) 山々。末尾に「昭和辛未十月写」と記す。	[印・□田][印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和6年)札幌十二銀行支店長 島田達治殿	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。
0005	0	9	第五号 翰墨遊戯	[武田霞洞(白)揮毫](書)	—	—	1932	—	—	昭和	7	か	「風恬日暖荡/春光越蝶/遊蜂乱入房/数株門柳低/衣桁一片山花/落笔床」。署名の後に「録□詩」と記す。	霞洞白[印・武田白印][印・吉夫]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】東京書家 武田霞洞先生	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。
0005	0	10	第五号 翰墨遊戯	[宮崎国吉(春□)揮毫](書)	—	—	1932	6	17	昭和	7	—	「祥雲」。	春□[印][印・春(カ)洵]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和七年六月十七日来泉/旭川検事正 宮崎国吉	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。
0005	0	11	第五号 翰墨遊戯	[荒蒔義勝揮毫](書)	—	—	1932	(6)	(26)	昭和	7	—	「白鶴/千年/靈亀/万年」。	荒蒔	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和七年六月廿六日来館/所沢飛行学校長陸軍中將 荒蒔閣下	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。
0005	0	12	第五号 翰墨遊戯	[日雪揮毫](書)	—	—	1932	—	—	昭和	7	か	「無我」。	日雪[印・無一庵][印・日雪]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】無一庵 日雪殿	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉 石川修次」と記載。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0005	0	13	第五号 翰墨 遊戯	[中村華洞(華洞道人)揮毫](書)	—	—	1933	初秋(8)	18	昭和	癸酉(8)	—	「丹光晴/貫洞中/霞」。末尾に「昭和癸酉初秋」と記す。	華洞道人 [印][印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和八年八月十八日「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉来泉/書家 中村華洞殿	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉来泉/書家 中村華洞殿
0005	0	14	第五号 翰墨 遊戯	[千葉郁治(所南)・川島四郎(土路生)揮毫](書画)	—	—	1933	12	3	昭和	8	—	川島四郎による画、千葉郁治による賛。馬車図。紙本著色。賛「轎で往く身は千里も一里/是北海之天地」。	讀:所南(印・所南) 画:土路生(花押 ※「しろう」と読む)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年十二月三日来泉(副官主計大尉川島四郎殿画)/陸軍糧秣本廠長主計中将 千葉郁治閣下	折本。「翰墨遊戯」所収。包紙収納(題箋「第五号 翰墨遊戯」、裏書に「登別温泉来泉/副官主計大尉川島四郎殿画)/陸軍糧秣本廠長主計中将 千葉郁治閣下
0006	0	1	第六号 幽居 帖	[宮尾舜治揮毫](書)	1	18	1933	8	17	昭和	8	—	元北海道庁長官・宮尾舜治の揮毫。「幽居気味長」。	舜治	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和八年八月十七日来泉/元北海道庁長官 宮尾舜治殿	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	2	第六号 幽居 帖	[エルンストアルツールフォーレッツヒョー揮毫]	—	—	1933	10	23	昭和	8	—	独乙大使・ドクトル エルンストアルツォールフォーレッツヒョーの揮毫。ドイツ語と思われる。読解不能だが「23.10.33」と末尾に記す。	[能]※判読不能	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年十月廿三日来泉/独乙大使ドクトル エルンスト アルツォールフォーレッツヒョー閣下	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	3	第六号 幽居 帖	[カークノール揮毫]	—	—	1933	10	23	昭和	8	—	独乙大使ドクトルエルンストアルツォールフォーレッツヒョー随同行 独乙大使館書記官・ドクトル カークノールの揮毫。大使と同じ頁に記載。ドイツ語と思われる。読解不能だが末尾に「23.Oktober.1933」と記す。	[能]※判読不能	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】随行全(※独乙)大使館商務書記官 ドクトル カークノール殿	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	4	第六号 幽居 帖	[梅崎延太郎揮毫](書)	—	—	1932	6	11	昭和	7	—	軍馬補充部本部長・梅崎中将の揮毫。「天地正大気」。	梅崎(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和)七年六月十一日来遊/軍馬補充部本部長 梅崎中将閣下	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	5	第六号 幽居 帖	[清水孝蔵揮毫](短歌)	—	—	1932	10	23	昭和	7	—	「御代なれや 紅葉を見つゝ/あしもとに/ゆのわきいつる/谷間をそゆく」。冒頭に「昭和七年十月下旬登別温泉の宿にて」と記す。	由親	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和7)年十月廿三日来泉/札幌控訴院長 清水孝蔵殿	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	6	第六号 幽居 帖	[畑俊六揮毫](書)	—	—	1933	3	5	昭和	8	—	「一剣懸天/萬妖潜影」。末尾に「昭和八年三月/皇軍熱河戡定之日」と記す。	畑 俊六	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和八年三月五日来泉/陸軍省砲兵監中将 畑俊六閣下	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	7	第六号 幽居 帖	[佐藤昌介揮毫](書)	—	—	1933	5	27	昭和	8	—	「風光明媚」。	琢堂	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年五月廿七日来泉/前北大総長 男爵 佐藤昌介閣下	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	8	第六号 幽居 帖	[藤田秀堂揮毫](画)	—	—	1933	7	4	昭和	8	—	日本舞踊の画。紙本著色。	秀堂[印・藤田秀][印・秀堂]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年七月四日来遊/画家 藤田秀堂殿	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	9	第六号 幽居 帖	[ピヤインドラ ヴィジット揮毫]	—	—	1933	7	22	昭和	8	—	判読不能。タイ語で記載か。	[能]※判読不能	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年七月廿二日来泉/暹羅(※タイ)公使 ピヤインドラ ヴィジット閣下	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	10	第六号 幽居 帖	[高橋真八揮毫](書)	—	—	1933	秋(9)	(13)	昭和	癸酉(8)	—	「皇風洽四海」。末尾に「昭和癸酉秋」と記す。	高橋	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年九月十三日来泉/陸軍省米城部本部長 中将 高橋真八閣下	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	11	第六号 幽居 帖	[藤原善瑩揮毫](書)	—	—	1933	7	28	昭和	8	—	「福寿海」。末尾に「昭和八年七月下院」と記す。	善瑩[印](印・善瑩)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和八年七月廿八日来泉/越前真宗管長 藤原善瑩猊下	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0006	0	12	第六号 幽居帖	[下村宏(海南)揮毫](短歌)	—	—	1933	7	29	昭和	8	—	「朴の葉に宿れる露は/朝の風に/さゆれなからも/落とすありけり」。冒頭に「第一瀧本楼上」と記す。	海南	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年七月廿九日来泉/東京朝日新聞副社長 法学博士 下村海南殿	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	13	第六号 幽居帖	[清水澄揮毫](書)	—	—	1933	8	4	昭和	8	—	「徳不孤必/有隣」。	澄	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年八月四日来泉/行政裁判所長官法学博士 清水澄閣下	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	14	第六号 幽居帖	[田崎慎治揮毫](書)	—	—	1933	8	12	昭和	8	—	「礼義廉恥/国四維也」。末尾に「昭和八年八月十二日」と記す。	田崎慎治	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年八月十二日来泉/神戸商業大学校長 田寄慎治殿	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	15	第六号 幽居帖	[安達謙蔵(漢城)揮毫](書)	—	—	1933	8	20	昭和	8	—	政治家、安達謙蔵(字は原泉、号は漢城)の揮毫。「丹心荅聖明」。	漢城(花押・謙)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年八月二十日来泉/国民全盟総裁 安達謙蔵閣下	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	16	第六号 幽居帖	[杉政人揮毫](書)	—	—	1933	8	30	昭和	8	—	「至和(カ)/一貫」。	政人	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和八年八月三十日来泉/海軍艦政本部長 中将 杉政人閣下	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	17	第六号 幽居帖	[岸本綾夫揮毫](書)	—	—	1933	9	1	昭和	8	—	「寿似山」。	綾夫(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年九月一日来泉/陸軍造兵廠長官 中将 岸本綾夫閣下	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0006	0	18	第六号 幽居帖	[上山満之助揮毫](書)	—	—	1933	初秋(9)(11)		(昭和)	癸酉(昭和8)	—	「花竹/秀」。末尾に「癸酉初秋」と記す。	蔗(カ)口満	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年九月十一日来泉/貴族院議員 上山満之助殿	折本。「幽居帖」に所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅洞石川脩次」の押印)。帙収納。
0007	0	1	第七号 会心帖	[杉原美代太郎揮毫](書)	1	15	1933	11	18	(昭和)	癸酉(昭和8)	—	「一浴精神」。末尾に「癸酉冬日」の記載あり。	杉原	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和八年十一月十八日来登別温泉/旭川第七師団長陸軍中将 杉原閣下	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0007	0	2	第七号 会心帖	[千葉郁治(所南)揮毫](漢詩)	—	—	1933	12	3	昭和	8	—	「暁色放晴祥靄/紅潮鷄一啜入/長風淼茫口浪/瞳朧日之自扶/桑東海東」。末尾に「朝海」と記されており、本資料の題か。	所南山樵[印・千葉郁印][印・所南山樵]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和8)年十二月三日来泉/陸軍糧秣支廠長/陸軍中将/主計總監 千葉郁治閣下	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0007	0	3	第七号 会心帖	[永野修身揮毫](書)	—	—	1934	2	(12)	昭和	9	—	「照古鑑今」。末尾に「昭和九年二月」と記載。	修身	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和九年二月十二日来泉/横須賀鎮守府司令長官/海軍中将 永野修身	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0007	0	4	第七号 会心帖	[古荘幹郎揮毫](書)	—	—	1934	2	(21)	昭和	甲戌(9)	—	「皇徳洽四海」。末尾に「昭和甲戌二月」の記載あり。	幹郎	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年二月廿一日来泉/陸軍省参謀本部第一部長/陸軍中将 古荘幹郎モトヲ閣下	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0007	0	5	第七号 会心帖	[小野北水揮毫](書画)	—	—	1934	6	13	昭和	9	—	達磨大師画。賛「無聖」。	北水[印・小埜口印][印・路印道然]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年六月十三日来泉/洋画家 小野北水殿	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0007	0	6	第七号 会心帖	[高橋勝馬揮毫]	—	—	1934	6	13	昭和	9	—	高橋工兵大佐の揮毫。「昭和八年秋/於熱河省古北口/写口」と書かれた万里長城の絵。水墨画。古北口(こほくこう)は万里の長城の要害。	高橋工兵大佐[印・曙堂]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和九年六月十三日来泉/陸軍工兵大佐 画家 高橋勝馬殿	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第七号」、題箋「觸目會心帖」)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0007	0	7	第七号 会心帖	觸目 〔黒河内四郎揮毫 (書)〕	—	—	1934	春(6)	(14)	(昭和)	甲戌(9)	—	黒河内(くろかわち)四郎の揮毫。日本の 鉄道省官僚、土木工学者。「万年口色/在 又(か)口」。末尾に「甲戌春」と記す。	其山[印・黒河 内四郎印][印・ 其山]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全 (※昭和9)年六月十 四日来泉/鏡道省 工務局長 黒河内 四郎殿	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第 七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0007	0	8	第七号 会心帖	觸目 〔石川半三郎揮毫 (書)〕	—	—	1934	7	28	昭和	9	—	「同族相会」。末尾に「昭和九年七月廿八 日」の記載。	半三郎	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全 (※昭和9)年七月廿 八日来泉/陸軍糧 秣支本廠長/陸軍 大佐/石川半三郎 殿	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第 七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0007	0	9	第七号 会心帖	觸目 〔永平寺貫主秦慧 昭揮毫〕(書)	—	—	1934	初夏(6)	(18)	昭和	9	—	「竹密不妨流/水過山高/豈礙白雲/飛」。 末尾に「昭和九戌初夏」と記載。	永平昭翁[印・ □□賜大口正 □禪師]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全 (※昭和9)年六月十 八日来館/越前永 平寺貫主 昭翁 秦 りとの見出しの新聞切抜の貼付あり。 慧昭禪師猊下	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第 七号」、題箋「觸目會心帖」)。 ※芳名録に「永平寺貫主 初の日高入
0007	0	10	第七号 会心帖	觸目 〔田中穂積揮毫 (書)〕	—	—	1934	6	25	昭和	9	—	「悠然見南山」。	穂積(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全 (※昭和9)年六月廿 五日来泉/早稲田 大学総長 田中穂 積殿(墨筆)	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第 七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0007	0	11	第七号 会心帖	觸目 〔血脇守之助(血半 仙)揮毫〕(書)	—	—	1934	7	(5)	昭和	9	—	「清如水/兮直如矢」。末尾に「昭和九年七 月」の記載。	血半仙	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭 和九年七月五日来 泉/東京歯科医学 専門学校長 血脇 守之助殿	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第 七号」、題箋「觸目會心帖」)。 ※芳名録に來道を伝える新聞切抜貼付。
0007	0	12	第七号 会心帖	觸目 〔福田浩湖揮毫〕(書 画)	—	—	1934	夏(7)	(19)	昭和	甲戌(9)	—	画家福田浩湖の揮毫。魚図。紙本著色。 賛「吞舟魚不住支流」。末尾に「昭和甲戌 夏写於登利(ママ)別客舎」の記載あり。	浩湖(印・浩) (印・湖)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全 (※昭和9)年七月十 九日来館/文展四 帝展七入選画家 福田浩湖殿	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第 七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0007	0	13	第七号 会心帖	觸目 〔本多熊太郎(桂城) 揮毫〕(書)	—	—	1934	7	(25)	昭和	甲戌(9)	—	「忠誠貫/於金石/孝弟通/於神明」。末尾 に「昭和甲戌七月」の記載。	桂城本多	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全 (※昭和9)年七月廿 五日来泉/前特命 全權大使 桂城 本 多熊太郎殿	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第 七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0007	0	14	第七号 会心帖	觸目 〔内田信也揮毫 (書)〕	—	—	1934	8	23	昭和	9	—	内田信也(のぶや)の揮毫。「天壤無窮」。	信也[印・内田 信也]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全 (※昭和9)年八月廿 三日来館/鏡道大 臣 内田信也閣下	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第 七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0007	0	15	第七号 会心帖	觸目 〔藤山雷太揮毫 (書)〕	—	—	1934	8	22	昭和	9	—	「光輝」。	雨田[印][印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全 (※昭和9)年八月廿 二日来泉/日本製 糖社長 貴族院議 員 藤山雷太殿	折本。「觸目會心」所収。帙収納(表書「第 七号」、題箋「觸目會心帖」)。
0008	0	1	第八号 精華 帖	精華 〔関橘邨(直彦)揮 毫〕(書)	1	14	1934	—	—	昭和	9	か	「精華」。	橘邨仙史[印・直 彦之印][印・橘 邨]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】橘 邨 関直彦殿 泰東 書道院総務長	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東 京市芝区新橋四ノ八))登別温泉ニ夫妻ニ テ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配 慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼 付。帙収納。
0008	0	2	第八号 精華 帖	精華 〔三浦英蘭揮毫〕(書 画)	—	—	1934	—	—	昭和	9	か	詩画ともに英蘭の揮毫。花鳥図(梅花)。紙 本著色。賛「□□□通/城外邨/舎南舎北/ 雪猶存東風/未□余寒正/好梅□月一 痕」。	英蘭(印・久)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】英 蘭 帝展派画伯	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東 京市芝区新橋四ノ八))登別温泉ニ夫妻ニ テ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配 慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼 付。帙収納。
0008	0	3	第八号 精華 帖	精華 〔花房雲山揮毫 (書)〕	—	—	1934	—	—	昭和	9	か	「江以風月/無常主閑/者便是主/人」。	雲山口人 [印][印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】雲 山 花房雲山殿 元 明治書道会教授/ 泰東書道院理事	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東 京市芝区新橋四ノ八))登別温泉ニ夫妻ニ テ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配 慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼 付。帙収納。
0008	0	4	第八号 精華 帖	精華 〔松巖揮毫〕(書画)	—	—	1934	—	—	昭和	9	か	竹図(水墨画)。賛「玉立蕃々竹數竿/風枝 露葉/常清寒」。	松巖(印・松巖)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】松 巖 帝展派画家	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東 京市芝区新橋四ノ八))登別温泉ニ夫妻ニ テ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配 慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼 付。帙収納。
0008	0	5	第八号 精華 帖	精華 〔辻香塙揮毫〕(書 画)	—	—	1934	—	—	昭和	9	か	香塙揮毫書画。溪谷に咲く花の絵。紙本著 色。賛「幽谷/千古/香」。	香塙[印・順 宣][印・香塙]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】香 塙 辻香塙 泰東書 道院総務	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東 京市芝区新橋四ノ八))登別温泉ニ夫妻ニ テ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配 慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼 付。帙収納。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0008	0	6	第八号 精華帖	[松下太虚揮毫](書)	—	—	1934	—	—	昭和	9	か	さおしかの/あさたつ/を(か)のゝ/あきはきに/たまと見るまで/おけるしら露	太虚(印)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】太虚 松下太虚 書家 泰東書道院理事	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東京市芝区新橋四ノ八)登別温泉ニ夫妻ニテ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼付。帙収納。
0008	0	7	第八号 精華帖	[成田松坡揮毫](書)	—	—	1933	仲冬	—	(昭和)	癸酉(8)	か	書画。菊花図。賛「正色黄為貴/天姿白亦奇」。	松坡道人[印][印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】松坡 帝展派画人 成田松坡殿/泰東書道院総務	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東京市芝区新橋四ノ八)登別温泉ニ夫妻ニテ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼付。帙収納。
0008	0	8	第八号 精華帖	[江川碧潭揮毫](書)	—	—	—	—	—	—	—	—	「春色無/高不花/枝自短/長」。	碧潭[印・耕雲種月]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】碧潭 江川碧潭殿 泰東書道院判(カ)務員	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東京市芝区新橋四ノ八)登別温泉ニ夫妻ニテ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼付。帙収納。
0008	0	9	第八号 精華帖	[林祖洞(師白道人)揮毫](書)	—	—	1934	陽中	—	(昭和)	甲戌(9)	か	「各聞強健/有力時自/策自励求/常住」。	師白道人[印][印・大澄]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】師白 林祖洞殿 師ハ霞洞武田白氏ナルニ依リ/師ヲ尊ビ師白道人ト号ス	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東京市芝区新橋四ノ八)登別温泉ニ夫妻ニテ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼付。帙収納。
0008	0	10	第八号 精華帖	[武田霞洞(白)揮毫](書)	—	—	1934	正	—	(昭和)	甲戌(9)	か	「千石万一松/以新瞳(カ)瓏初(カ)日(カ)/耀清宸(カ)詩書二(カ)/道楽如旧病(カ)起/迎(カ)歳七十春」。	霞洞[印・武田白印][印・吉夫]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】霞洞 武田白先生 元明治書道会教授/元泰東書道院総務	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東京市芝区新橋四ノ八)登別温泉ニ夫妻ニテ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼付。帙収納。
0008	0	11	第八号 精華帖	[高畑翠石揮毫](書画)	—	—	—	—	—	—	—	—	書画。花図。賛「幽口消遠」。	翠石印人(印・隆)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】翠石 高畑翠石殿 篆刻大家	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東京市芝区新橋四ノ八)登別温泉ニ夫妻ニテ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼付。帙収納。
0008	0	12	第八号 精華帖	[中村華洞揮毫](書)	—	—	1934	新春	—	(昭和)	甲戌(9)	か	「日照紫宸口/口霞六口朝駕/五雲東瀕影新/口昭和口天下/口生口口華」。	華洞龍人[印・中邨口印][印・華洞]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】華洞 中村華洞殿 泰東書道展受賞者	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東京市芝区新橋四ノ八)登別温泉ニ夫妻ニテ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼付。帙収納。
0008	0	13	第八号 精華帖	[池田柳洞揮毫](書)	—	—	1934	春日	—	(昭和)	甲戌(9)	か	「松濤忽卷/三更雨林/籟俄驚六/月秋」。	柳洞[印・池田良印][印・柳洞]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】柳洞 池田柳洞殿 鎌道省人事課口口	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東京市芝区新橋四ノ八)登別温泉ニ夫妻ニテ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼付。帙収納。
0008	0	14	第八号 精華帖	[村松祖邦揮毫](書)	—	—	1934	初春	—	(昭和)	甲戌(9)	か	「地形山勢相/高下野色溪/光自往還」。末尾に「口節書(カ)堂」の記載。	祖邦[印・祖邦]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】祖邦 村松祖邦殿	折本。「精華帖」所収。巻頭に「本書ハ(東京市芝区新橋四ノ八)登別温泉ニ夫妻ニテ来遊アリシ書ノ同好者中村華洞氏ノ配慮ニ拠ル物也」と記載の芳名録(罫紙)貼付。帙収納。
0009	0	1	第九号 至誠帖	[末次正信揮毫](書)	1	15	1934	8	30	昭和	9	—	「至誠」。	岐(カ)陽	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和九年八月三十日来泉/聯合艦隊司令長官海軍大將末次正信閣下	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	2	第九号 至誠帖	[頼母木桂吉(喜陽)揮毫](書画)	—	—	1934	9	17	昭和	9	—	書画。金魚図。賛「なにひとつ/思ひ煩ふこともなく/ころ涼しき夏や/すこさむ」。	喜陽	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年九月十七日来泉/民政党総務 頼母木桂吉殿	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	3	第九号 至誠帖	[塩澤幸一揮毫](書)	—	—	1934	8	(29)	昭和	9	—	「忠恕」。末尾に「昭和九年八月」と記載。	塩澤 幸一(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年八月廿九日来泉/航空本部長海軍中將 塩澤幸一閣下	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	4	第九号 至誠帖	[河村儀一郎揮毫](書)	—	—	1934	8	29	昭和	9	—	「豊人/事頼/神護」。	儀一郎(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9年8月29日)全行/海軍少将 河村儀一(ママ)閣下	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	5	第九号 至誠帖	[出淵勝次(老樅)揮毫]	—	—	1934	秋(10)	(3)	昭和	9	—	「静観」。末尾に「昭和九年秋」と記載。	老樅	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年十月三日来駕/元全権大使 出淵勝次閣下	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0009	0	6	第九号 至誠帖	[大口喜六(莚山外史)揮毫](画)	—	—	1934	9	6	昭和	9	—	水墨画。	莚山外史	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和九年九月六日来泉/政友会総務 大口喜六殿	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	7	第九号 至誠帖	[今村武志揮毫](書)	—	—	1934	9	19	昭和	9	—	「和平」。	武志	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年九月十九日来泉/樺太庁長官 今村武志殿	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	8	第九号 至誠帖	[第十四代淡々斎]	—	—	1934	9	19	昭和	9	—	書画。松図カ。賛「千年翠」。	口(花押・十四)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年全日(※9月19日)来駕/茶道ノ権威千利休 十四代宗匠今日庵 淡々斎殿	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	9	第九号 至誠帖	[大塚堅之助揮毫](書)	—	—	1934	10	30	昭和	9	—	「忠孝」。末尾に「昭和九年 勅語下賜 紀 大塚中将 念日」の記載。	大塚中将	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年十月三十日来駕(留守師団長名古屋出身) 第七師団長陸軍中将 大塚堅之助閣下	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	10	第九号 至誠帖	[山口永美(カ)揮毫](書)	—	—	1934	10	30	昭和	9	カ	「誠実従業」。	山口	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年 月 日来泉/大湊要港部司令官 山口海軍少将閣下	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	11	第九号 至誠帖	[松本姿水揮毫](画)	—	—	1934	11	20	昭和	9	—	花鳥図(梅花図)。紙本著色。	姿水[印・姿水]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和九年十一月廿日来駕/帝展審査員 画伯 松本姿水殿	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	12	第九号 至誠帖	[田口文太揮毫](書)	—	—	1935	初夏(6)	(15)	(昭和)	乙亥(10)	—	「洗凝脂」。末尾に「乙亥之初夏」と記載。	田口文太	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十年六月十五日来泉/陸軍衛生材料廠長/陸軍薬剤總監 田口文太閣下	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	13	第九号 至誠帖	[松山茂揮毫](書)	—	—	1934	9	15	昭和	9	—	「靈氣満天地」。	茂	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年九月十五日来泉/海軍中将 松山茂閣下	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	14	第九号 至誠帖	[小西秀葩揮毫](画)	—	—	1935	2	17	昭和	10	—	花鳥図(ザクロの枝にとまる鳥)。紙本著色。	秀葩[印・秀葩]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和10)年二月十七日来泉/池上秀畝門下 小西秀葩画伯殿	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0009	0	15	第九号 至誠帖	[大谷光暢揮毫](書)	—	—	1934	10	5	昭和	9	—	「洗心」。	愚郊	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和九年十月五日来駕/東本願寺法主 大谷光暢猊下	折本。「至誠帖」所収。帙収納(表書「第九号」、題箋「至誠帖」、内側に「第九号至誠帖 石川梅洞」の記載あり(墨筆))。
0010	0	1	第十号 閑雲野鶴帖	[新井石龍(雲洞)揮毫](書)	1	17	1934	9	1	昭和	9	—	「青山元不/動岡雲/自去来」。	雲洞石龍(印・石)(印・龍)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和九年九月一日来館/新井石禅法嗣 新井石龍師	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	2	第十号 閑雲野鶴帖	[水谷竹紫揮毫](俳句2首)	—	—	1934	夏初(8)	(10)	昭和	9	—	「地獄谷 硫黄の山の 暑きかな」「地獄谷 若葉めぐりて 露涼し」。冒頭に「昭和九年 夏初めニ/登別温泉ニ遊びて」との記載あり。	竹紫(印)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年八月十日来泉/文豪(水谷八重子令兄) 水谷竹紫殿	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	3	第十号 閑雲野鶴帖	[金子薊谷揮毫](書)	—	—	1934	7	29	昭和	9	—	「水深魚/極楽林/茂鳥知帰」。※杜甫。水深ければ魚楽しみを極め 林茂ければ鳥帰るを知る	薊谷山人[印・金子賢][印・薊谷]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年七月廿九日来泉/書学院 金子薊谷殿	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	4	第十号 閑雲野鶴帖	[大谷竹次郎揮毫](書)	—	—	1934	8	10	昭和	9	—	「松竹」。末尾「昭和九年八月」と記す。	大谷竹次郎	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年八月十日来泉/松竹社長 大谷竹次郎殿	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0010	0	5	第十号 野鶴帖	閑雲 [デルクセン揮毫](サイン)	—	—	1935	9	23	昭和	10	—	英語とドイツ語か。判読不能。揮毫はアルファベットの筆記体で途中「23.september1935.」や「23/9.35.」と記す。青ペンでの揮毫か。	□Dirksen	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十年九月廿四日/独乙大使夫妻デルクセン殿/登別の自然の美しさは私共に非常に深い印象を与へた	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	6	第十号 野鶴帖	閑雲 [相澤春洋揮毫](短歌)	—	—	1934	8	6	昭和	9	—	「ふるさとの/ものゝふたちか/うちはてし/五稜郭の/みつはめにしむことし」。	春洋(印)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和九年八月六日来海/書家 相澤春洋殿	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	7	第十号 野鶴帖	閑雲 [水谷八重子揮毫](画)	—	—	1934	8	10	昭和	9	—	自画像カ。紙本著色。	八重子(印・水)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年八月十日来遊/女優 水谷八重子殿	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	8	第十号 野鶴帖	閑雲 [桑原翠邦(清美)揮毫]	—	—	1934	7	29	昭和	9	—	「臧山口(肖カ)」。	翠邦[印・清美之印][印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年七月廿九日来館/書学院桑原翠邦殿	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	9	第十号 野鶴帖	閑雲 [松旭斎天勝揮毫](俳句)	—	—	1934	8	20	昭和	9	—	「湯けむりや すゝき隠れて 月涼し」。	天かつ	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和9)年八月廿日来遊/奇術師 昇(ママ)旭斎天勝殿	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	10	第十号 野鶴帖	閑雲 [中島虎吉揮毫](書)	—	—	1935	9	30	昭和	10	—	「斯山斯水」。	中島中将(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十年九月三十日(岐阜県大垣出身)/陸軍中将 中島虎吉閣下	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	11	第十号 野鶴帖	閑雲 [嶋中雄作揮毫](書)	—	—	1934	9	21	昭和	9	—	「霜葉紅/於二月/花」 ※晩唐の詩人杜牧。霜葉は二月の花より紅なり。	雄作	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和九年九月廿一日来泉/中央公論社長 島(ママ)中雄作殿	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	12	第十号 野鶴帖	閑雲 [下村千秋揮毫](画)	—	—	1934	9	21	昭和	9	—	椿図。紙本著色。	千秋	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全日(※昭和9年9月21日)/中央公論社文豪 下村千秋殿	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	13	第十号 野鶴帖	閑雲 [大森亮順揮毫](書)	—	—	1935	5	29	昭和	10	—	「洗浴無/垢身」。	僧亮順	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和)十年五月廿九日来駕/東京浅草寺大僧正 大森亮順祝下	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	14	第十号 野鶴帖	閑雲 [川島義之揮毫](書)	—	—	1935	初夏(6)	(18)	昭和	10	—	「行善愛人非/為名而名自(カ)從之」。末尾に「昭和十年初夏」の記載あり。	勝岳[印・川島義之][印・勝岳]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和10)年六月十八日来泉/陸軍大将 川島義之閣下	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	15	第十号 野鶴帖	閑雲 [織田信恒揮毫](書)	—	—	1935	夏(7)	(29)	昭和	10	—	「千客万来」。末尾に「昭和十年夏」と記載。	信恒	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和10)年七月廿九日来駕/子爵北海道拓殖調査会/特別委員長 織田信恒閣下	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	16	第十号 野鶴帖	閑雲 [山本英輔揮毫](書)	—	—	1935	9	6	昭和	10	—	「智仁勇」。	海軍大将山本英輔(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十年九月六日来泉/海軍大将 山本英輔閣下	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0010	0	17	第十号 野鶴帖	閑雲 [宇佐美興屋揮毫](書)	—	—	1935	初秋(8)	(10)	昭和	10	—	「紅葉黄/花秋景寛」。末尾に「昭和十年初秋」の記載あり。	興堂	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和10)年八月十日/第七師団長 陸軍中将 宇佐美興屋閣下/栄転赴任の途特二御揮毫を仰ぎ/たる好縁起とす	折本。「閑雲野鶴帖」所収(裏表紙に[北海道登別温泉 梅洞 石川修次]印押印)。帙収納。
0011	0	1	第十一号 清芳帖	[益池藍畦揮毫](書)	1	24	1935	7～8	—	昭和	10	か	「群賢/咸集」。	藍畦[印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】春畦会ノ長日本染織株式会社々長/本郷中学校理事長 益池藍畦殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0011	0	2	第十一号 清芳帖	[渡辺雪峰揮毫](書画)	—	—	1935	7～8	—	昭和	10	か	書画。松岡。賛「紫髯(カ)夜温(カ)千山自/織(カ)田春座万口寒」。	雪峰髯叟(印・雪)(印・峰)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】画家 渡辺雪峰殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	3	第十一号 清芳帖	[山崎箏(カ)洞揮毫](書)	—	—	1935	7～8	—	昭和	10	か	「所思不可言/為(※別場所に移す記号)所(カ)言不可(※別場所に移す記号)/人間安心法/唯在无所思(カ)」。末尾に「福澤翁詩」とあり。	口道(カ)[印・山崎][印・口洞]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】西川華洞直門下/慶応大学講師 山崎箏(カ)洞殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	4	第十一号 清芳帖	[西丸小園揮毫](書画)	—	—	1935	7～8	—	昭和	10	か	書画。花鳥図(梅花図)。紙本著色。賛「一枝梅動已催春」。	小園[印・小園書画]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】泰東書道院総務 西丸小園殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	5	第十一号 清芳帖	[中村春堂(尚友)揮毫](書)	—	—	1935	7～8	—	昭和	10	か	「梅の花/さきのさかゑは/しらゆきに/つゞみて千代の/はるをまつかな」。	春堂[印・尚友之印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全上(※泰東書道院総務) 中村春堂殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	6	第十一号 清芳帖	[花房雲山揮毫](書)	—	—	1935	7～8	—	昭和	10	か	「口得安身/処寒山長可/保微風吹/幽松近於声/愈好」。『寒山詩』の一節。	雲山口人(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】元明治書道会教授/泰東書道院総務 花房雲山殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	7	第十一号 清芳帖	[[]英藍揮毫](書画)	—	—	1935	7～8	—	昭和	10	か	山水画。紙本著色。賛「寒邨雪口(気カ)」。	英藍[印・重印][印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】美術協会協議員 英藍殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	8	第十一号 清芳帖	[辻香塙(順宣)揮毫](書)	—	—	1935	7～8	—	昭和	10	か	「上林宣託/老仙口別成/寄無復囂/塵到池辺/夢(カ)自(カ)間」。	香塙居士 宣[印・順宣][印・香塙]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】泰東書道院総務 辻香塙殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	9	第十一号 清芳帖	[寺山(カ)春龍揮毫](書)	—	—	1935	暮春	—	(昭和)	乙亥(10)	—	「人間何事不知/機讀智窮文多/連口者初忽(カ)無/定封五分如是/五分非」。末尾に「乙亥暮春」/謹詠春畦先生詩」と記す。	春龍[印・盛(カ)][印・春龍]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】春畦会 寺「島」(抹消) 山春龍殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	10	第十一号 清芳帖	[近藤(カ)竹蔭(竹蔭虚子)揮毫](漢詩、書)	—	—	1935	7～8	—	昭和	10	か	「縹緲寒煙(カ)落/凡間那口遠/出徽州山芸/林珍賞曾所/見万里過來/幾海関」。末尾に「和芸林珍賞題詩」と記載あり。	竹蔭虚士	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】美術協会協議員 近藤竹蔭殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	11	第十一号 清芳帖	[野田蘭洞揮毫](書)	—	—	1935	3	—	(昭和)	乙亥(10)	か	「碧澗泉水/清寒山月/華白默知/神自明観/空境愈寂」。『寒山詩』一節。末尾に「歲次乙亥三月中口/蘭洞口口題」の記載あり。	蘭洞	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】泰東書道院展覧会/九年夏宮賞受領者 野田蘭洞殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	12	第十一号 清芳帖	[中谷旭堂揮毫](書)	—	—	1935	口春	—	(昭和)	乙亥(10)	か	「春水溜四澤/夏雲多奇峰/纔月揚明輝/冬嶺秀孤松」。末尾に「乙亥口(冬カ)春於口(金カ)翠莊南/口録陶淵明四時」との記載あり。	旭堂口士口[印・中谷口][印・旭堂]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】春畦会教授 中谷旭堂	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	13	第十一号 清芳帖	[岩田鶴皐(刀寧漁夫)揮毫](書)	—	—	1935	7～8	—	昭和	10	か	「峻嶒富嶽聳/千秋赫灼朝/暉照八洲/休説區々風/美地靈人傑是神州」。乃木希典による富士山を詠んだ漢詩。	鶴皐[印・刀寧][印・漁夫]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】岩田鶴皐殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	14	第十一号 清芳帖	[上領柏畦揮毫](書)	—	—	1935	7～8	—	昭和	10	か	「詩至於杜甫文/至於韓退之/書於顔魯公/画至吳道子/公天下能事備」。末尾に「録蘇軾之語」と記載。	柏畦[印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】春畦会 上領柏畦殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	15	第十一号 清芳帖	[伊藤東海(誠治)揮毫](書)	—	—	1935	8	4	昭和	10	—	「得句煙/霞外置/身泉石/間」。	東海[印・誠印][印・東海]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十年八月四日 登別温泉ニ来遊/書家 伊藤東海殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	16	第十一号 清芳帖	[田中昌亀(カ)揮毫](書)	—	—	1935	夏	—	(昭和)	乙亥(10)	—	「人事有/憂樂山/光無古今」。末尾に「乙亥夏日」とあり。	秋邦[印・田中昌][印・秋皐]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】青木染工場支配人 田中昌亀(穉カ)殿/※以下肩書を記す	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	17	第十一号 清芳帖	[田中塊堂揮毫](書)	—	—	1935	8	4	昭和	10	—	「つゝめとも/かくれぬものは/なつむしの/身より/あまれる/おもひなりけり」。※後撰和歌集(インターネット)	塊堂	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十年八月四日来 泉/東海先生全行/田中塊堂殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	18	第十一号 清芳帖	[山本英輔揮毫](書)	—	—	1935	9	6	昭和	10	—	「敬天愛人」。	海軍大将山本英輔(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和10)年九月六日来 駕/海軍大将 山本英輔閣下	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0011	0	19	第十一号 清芳帖	[石野窓岳揮毫](書)	—	—	1935	8	4	昭和	10	—	「きのふまで/よそにおもひし/あやめくさ/けふハかやとの/つまとみるかな」。	窓岳	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和10)年八月四日来遊/伊藤東海先生全行 石野窓岳殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	20	第十一号 清芳帖	[松山茂揮毫](書)	—	—	1935	9	14	昭和	10	—	「雲起悠/然共逝/雨滴冷/然俱清」。	茂	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和10)年九月十四日来泉/軍令部海軍中将 松山茂閣下	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	21	第十一号 清芳帖	[大澤雅休揮毫](書)	—	—	1935	8	19	昭和	10	—	「山いく重/かさなりあへる/おくほ口へ/ひとは/すむらし/道つゝく/なり」。	[印・雅休之印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和10)年八月十九日 書学院/鮫島看(カ)山氏ト全行 大澤雅休殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	22	第十一号 清芳帖	[松下薫揮毫](書)	—	—	1935	9	19	昭和	10	—	「忌私奉公」。	松下薫	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和10)年九月十九日/海軍中将 松下薫閣下	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	23	第十一号 清芳帖	[尾上柴舟揮毫](短歌)	—	—	1935	8	27	昭和	10	—	「山のあめ/にふきひゝきも/ゆを出てし/ころに/きけは/たのしき/ろ(カ)口も(カ)」。	[印・柴]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十年八月廿七日御夫妻ニテ来駕 歌人兼書家 文学博士 尾上柴舟殿	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0011	0	24	第十一号 清芳帖	[中島虎吉揮毫](書)	—	—	1935	9	30	昭和	10	—	「皇風/洽/六合」。	中島中将(押印)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和10)年九月三十日/陸軍中将 中島虎吉閣下	折本。「清芳帖」所収。秩収納。芳名録に「昭和十年七、八月頃(東京春畦会種田かつ殿の御尽力ニ依り揮毫を受く)」と記す。
0012	0	1	第十二号 済美帖	[高橋貞夫揮毫](書)	1	14	1936	7	12	昭和	11	—	「済願美」。末尾に「昭和十一年七月十二日」の記載あり。	高橋貞夫(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年七月十二日来泉/陸軍中将 兵器本廠長 高橋貞夫閣下	折本。「済美帖」所収。
0012	0	2	第十二号 済美帖	[菅原寿仙(時保)揮毫](書)	—	—	1925	6	13	大正	14	—	「心幽」。	管長[印][印・曇華]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年「九月頃」(抹消)六月十三日/建長寺管長 菅原曇華猊下	折本。「済美帖」所収。
0012	0	3	第十二号 済美帖	[水野鍊太郎(香堂)揮毫](書)	—	—	1925	6	27	大正	14	—	「山静心閑」。	香堂	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※大正14)年「■」(抹消)六月二十七日/元内務大臣 水野鍊太郎閣下	折本。「済美帖」所収。
0012	0	4	第十二号 済美帖	[藤本来仙揮毫](画)	—	—	1925	9	—	大正	14	頃	画(ミミズクの図)。紙本著色。	来仙(印)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年九月頃/画家 藤本来仙氏	折本。「済美帖」所収。
0012	0	5	第十二号 済美帖	[境孫四郎揮毫](書)	—	—	1925	9	(19)	大正	14	—	「忠顕(カ)常思素/口巖別知/情天地之公/道渊源/在一誠」。末尾に「大正十四年九月」の記載あり。	境	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年九月十九日/陸軍少将 境孫四郎閣下	折本。「済美帖」所収。
0012	0	6	第十二号 済美帖	[杉本楚人冠揮毫](書)	—	—	1925	9	—	大正	14	頃	「青山元不動/雲自去来」。	楚	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正十四年九月頃/東京朝日新聞顧問 杉本楚人冠氏	折本。「済美帖」所収。
0012	0	7	第十二号 済美帖	[沼田一雅揮毫](画)	—	—	1935	10	5	昭和	10	—	画(虎の図)。紙本著色。	一雅(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十「一」(抹消)年十月五日/東京美術学校京都高等工芸学校教授/彫刻大家 沼田一雅氏	折本。「済美帖」所収。
0012	0	8	第十二号 済美帖	[永持源次揮毫](書)	—	—	1936	4	7	昭和	11	—	「桑之/弓」。	源次(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年四月七日 李錦公殿下ト御全行/陸軍中将陸軍砲工学校長/永持源次閣下	折本。「済美帖」所収。
0012	0	9	第十二号 済美帖	[岸野海雪揮毫](画)	—	—	1935	11	18	昭和	10	—	花鳥図(梅花に雪の図)。紙本著色。	海雪[印・海][印・雪]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十年十一月十八日/画家 岸野海雪氏	折本。「済美帖」所収。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0012	0	10	第十二号 済美帖	[石田雨園子揮毫](俳句)	—	—	1936	2	8	昭和	11	—	「峡深く/雨をまじうる/落葉かな」。	雨園子	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年二月八日/旭川俳諧師 石田雨園子氏	折本。「済美帖」所収。
0012	0	11	第十二号 済美帖	[川端玉雪揮毫](画)	—	—	—	—	—	大正	—	—	山水画。	玉雪[印・玉雪]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】大正 年 月 日画家/川端絵(か)学校長 川端玉雪氏	折本。「済美帖」所収。
0012	0	12	第十二号 済美帖	[木下成太郎(斗南)揮毫](書)	—	—	1936	初春(3)	(31)	(昭和)	丙子(11)	—	「勿慕貴と富/勿慕(※本来は憂)賤と貧/自間道何如貴/賤安之云 聞毀/勿戚々聞譽勿攸(※本来は欣)々 自願行何/如 毀誉安之訖」。末尾に「丙子初春 慕字憂之誤」の記載あり。	斗南成[印][印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年三月卅一日/政友会北海道支部長 木下成太郎氏	折本。「済美帖」所収。
0012	0	13	第十二号 済美帖	[東武(牧堂)揮毫](書画)	—	—	1936	2	26	昭和	11	—	花鳥図(水墨画)。賛「露温風開」。	牧堂[印・東武][印・口郷]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年二月廿六日(二. 二六事件ノ日)/前農林大臣 東 武閣下	折本。「済美帖」所収。
0012	0	14	第十二号 済美帖	[米内光政揮毫](書)	—	—	1936	6	6	昭和	11	—	「幽音」。	(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年六月六日/横須賀鎮守府司令官/海軍中將 米内光政閣下	折本。「済美帖」所収。
0013	0	1	第十三号 雲泉帖	[奥平昌恭揮毫](書)	1	17	—	—	—	—	—	—	「天下/無比/靈泉」。	石仙	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】「石仙殿」(抹消)(墨筆)/後筆で宮尾しげをと純一の間に「樺太鉄道社長 伯爵(石仙)奥平昌恭閣下」(墨筆) ※西郷従徳の右側に後筆にて記載	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	2	第十三号 雲泉帖	[西郷従徳揮毫](書)	—	—	1936	7	14	昭和	11	—	「幽静」。	侯爵西郷従徳(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年/七月十四日 侯爵 西郷従徳閣下	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	3	第十三号 雲泉帖	[水島爾保布揮毫](画)	—	—	1931	1	23	昭和	6	—	画(魚を釣り上げた漁夫の図)。紙本著色。	尔(印)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和六年/一月廿三日 漫画家 水島尔保布殿	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	4	第十三号 雲泉帖	[前川千帆揮毫](画)	—	—	1931	1	23	昭和	6	—	画(傘をさし、カセットデッキのような機器をもったウサギの図)。添え書き「モダンラットピクニックの図」。紙本著色。	千帆(印)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】々(※昭和6年1月23日) 全(※漫画家) 前川千帆殿	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	5	第十三号 雲泉帖	[宮尾しげを揮毫](画)	—	—	1931	1	23	昭和	6	—	画(木の上から釣り糸をたらす河童の図)。しげを[印・宮尾] 添え書き「太公望」。紙本著色。	(石川脩次)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】々(※昭和6年1月23日) 全(※漫画家) 宮尾しげを殿	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	6	第十三号 雲泉帖	[幸内純一揮毫](画)	—	—	1931	—	—	昭和	6	か	画(駒玩具の図)。紙本著色。	純一(印・幸内)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】純一	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	7	第十三号 雲泉帖	[阪本牙城揮毫](画)	—	—	1931	—	—	昭和	6	か	画(風呂桶に入る男性の図)。紙本著色。	牙城[印・牙城]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】坂本牙城殿	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	8	第十三号 雲泉帖	[憲揮毫](俳句)	—	—	—	—	—	昭和	—	か	「秋川や/石に下駄おく/女の子」。	憲	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】憲殿	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。詠み人については、昭和初期であれば千田憲という俳句もたしなんだ人物もいるが、判断できず。
0013	0	9	第十三号 雲泉帖	[青木郭公揮毫](俳句)	—	—	1936	11	8	昭和	11	—	「熱霧おそろし/竜巻地獄/虎地獄」。冒頭に「登別温泉大観」と記載。	郭公[印・郭公]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年十一月八日俳句宗匠 青木郭公殿	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	10	第十三号 雲泉帖	[湖上山人揮毫](書)	—	—	—	—	—	—	—	—	「従善如流」。	湖上山人	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】湖上山人殿	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	11	第十三号 雲泉帖	[阿部信行揮毫](書)	—	—	—	—	—	昭和	—	か	「説理就信」。	信(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】陸軍大将 阿部信行閣下	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0013	0	12	第十三号 雲泉帖	[南次郎(豊山)揮毫](書)	—	—	1931	初夏(7)	(7)	昭和	6	—	「謹譲」。末尾に「昭和六年初夏」の記載あり。	南[印・南次郎][印・豊山]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】元 陸軍大臣/昭和六年七月七日 全上(※陸軍大将) 南次郎閣下	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	13	第十三号 雲泉帖	[加藤寛治(華舟)揮毫](書)	—	—	1932	7	22	昭和	7	—	「以春風/接人」。江戸後期の陽明学派の儒学者・佐藤一斎 による言葉の一節。	華舟[印・加藤寛治]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和七年七月廿二日/海軍大将 加藤寛治閣下	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	14	第十三号 雲泉帖	[東武(牧堂)揮毫](画)	—	—	1936	9	27	昭和	11	—	水墨画(竹の図)。賛「清節」。	牧堂(印・東武)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年九月廿七日(閑院宮載仁親王殿下御口(成カ)/御退口(泉もしくは宗カ)/日)/元農林次官 東武殿	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	15	第十三号 雲泉帖	[石川半三郎(浙泉)揮毫](書)	—	—	1936	初秋(10)	(1)	昭和	11	—	「再来温泉郷/復見君談喬」。末尾に「昭和十一年初秋」の記載あり。	浙泉	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年十月一日/経理学校長 陸軍少将 石川半三郎閣下	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	16	第十三号 雲泉帖	[青柳栄司揮毫](書)	—	—	1936	11	16	昭和	11	—	「至誠無息」。	栄司	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年十一月十六日/皇教会々長 工学博士 青柳栄司殿	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0013	0	17	第十三号 雲泉帖	[松平保男揮毫](書)	—	—	1936	晩秋(11)	(16)	昭和	丙子(11)	—	「霜入千林」。末尾に「昭和丙子晩秋」と記載あり。	保男(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全日(※昭和11年11月16日)/水難救济会 副会長/子爵 松平保男閣下	折本。「雲泉帖」所収。包紙収納。
0014	0	1	第十四号 敬愛帖	[西郷従徳揮毫](書)	1	15	1936	7	14	昭和	11	—	「敬天愛人」。	侯爵西郷従徳(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年七月十四日(表紙西郷侯爵揮毫)/侯爵 西郷従徳閣下	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ举行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	2	第十四号 敬愛帖	[鳥巢玉樹揮毫](書)	—	—	1936	7	17	昭和	11	—	「清風」。	鳥巢玉樹(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年七月十七日/帝国水難会長海軍中将鳥巢玉樹閣下	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ举行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	3	第十四号 敬愛帖	[池田清(海嶽)揮毫](書)	—	—	1936	夏(7)	(19)	昭和	丙子(11)	—	「万古英風」。末尾に「昭和丙子夏」の記載。	海嶽	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年七月十九日/梨本宮守正王殿下御成ノ/際北海道庁長官 海嶽 池田清閣下	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ举行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	4	第十四号 敬愛帖	[西尾寿造揮毫](書)	—	—	1936	7	22	昭和	11	—	「進不求名/退不避罪」。末尾に「昭和十一年/七月二十二日」と記載。	寿造	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年七月廿二日 陸軍参謀次長/元陸軍次官 陸軍中将 西尾寿造閣下	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ举行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	5	第十四号 敬愛帖	[五来欣造(素川)揮毫](俳句)	—	—	1936	7	22	昭和	11	—	「湯上りや/こたつを前に/雪の山」。	素川	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年七月廿二日 大隈信常侯ト来泉/早稻田大学教授 素行(ママ) 五来欣造殿	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ举行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	6	第十四号 敬愛帖	[志村和男揮毫](画)	—	—	1936	7	23	昭和	11	—	画(蔭の葉をもつ河童の図)。紙本著色。	和男	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年七月二十三日(東京麹町有楽町/産業組合中央会囑託)/漫画家 志村和男殿	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ举行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	7	第十四号 敬愛帖	[島津忠重(海董)揮毫](書)	—	—	1936	7	28	昭和	11	—	「瑞祥」。	海董(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年七月廿八日 公爵 島津忠重閣下	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ举行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0014	0	8	第十四号 敬愛帖	[田中盛秀揮毫](書)	—	—	1936	7	28	昭和	11	—	「至誠通神」。	盛秀(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全日(※昭和11年7月28日)日本製鋼所重役/海軍中将 田中盛秀閣下	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ挙行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	9	第十四号 敬愛帖	[浜田国松(孤松)揮毫](書)	—	—	1936	夏(8)	(7)	(昭和)	丙子(11)	—	「紅桃/白李」。末尾に「丙子夏日書之」と記載。	孤松 濱田國[印・浜田國][印・孤松]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年八月七日/衆議院議長 浜田国松殿	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ挙行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	10	第十四号 敬愛帖	[金丸吉雄(梧舟)揮毫](書)	—	—	1936	孟秋(8)	(28)	(昭和)	丙子(11)	—	「何処是/不故園/哉」。末尾に「丙子孟秋月」と記載。	臨池庵主	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年八月廿八日 札幌市南二條西十丁目/北海道臨池会 梧舟 金丸吉雄殿	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ挙行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	11	第十四号 敬愛帖	[臼田亜郎揮毫](俳句)	—	—	1936	8	31	昭和	11	—	「あの湯/この湯/朝寒の身に/親(か)しけれ」。冒頭に「瀧本旅泊」との記載あり。	亜浪[印・亜浪]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年八月三十一日/俳句宗匠 臼田亜郎殿	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ挙行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	12	第十四号 敬愛帖	[中島今朝吾揮毫](書)	—	—	1936	秋(9)	(8)	昭和	丙子(11)	—	「利他/自利」。末尾に「昭和丙子秋」と記載あり。	中 嶌 今	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年九月八日来泉/憲兵司令官 陸軍中将 中島今朝吾閣下	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ挙行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	13	第十四号 敬愛帖	[光行次郎(学陽)揮毫](書)	—	—	1936	初秋(9)	(23)	(昭和)	丙子(11)	—	「天無親/常与着」。末尾に「丙子初秋」と記載。	学陽	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年九月二十三日/検事総長 光行次郎閣下	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ挙行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	14	第十四号 敬愛帖	[小川郷太郎揮毫](書)	—	—	1936	9	25	昭和	11	—	「松風有/清音」。	松寿	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年九月二十五日 商工大臣 小川郷太郎閣下	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ挙行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0014	0	15	第十四号 敬愛帖	[谷寿夫揮毫](書)	—	—	1936	9	(29)	昭和	丙子(11)	—	「締(か)操/清静」。末尾に「昭和丙子九月」と記載。	寿夫	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年九月二十九日/第六師団長 陸軍中将 谷寿夫閣下	折本。「敬愛帖」所収。秩収納。芳名録末尾に「註一八月以降御来遊揮毫ノ方ハ概ネ本道ニ於テ挙行セラルベキ大演習用ナリ、九月上旬第七八両師団ノ對抗演習アリ」と記載あり。
0015	0	1	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[古荘幹郎(雅山)揮毫](書)	1	17	1936	9	29	(昭和)	丙子(11)	—	「天懸海外三/千界/月照人間幾/百洲」。末尾に「丙子初秋」と記載。	雅山(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年九月廿九日来泉/航空本部長 陸軍中将 古荘幹郎/フルソウミキヲ閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	2	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[三宅俊雄(硝(か)楠)揮毫](書)	—	—	1936	秋(9)	(29)	昭和	丙子(11)	—	「掬水/月在手」。末尾に「昭和丙子秋」の記載あり。	硝(か)楠	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全日(※昭和11年9月29日)/戸山学校長 陸軍少将 三宅俊雄閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	3	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[杉山元揮毫](書)	—	—	1936	中秋(9)	(30)	昭和	11	—	「一誠克口/百千之/術」。末尾に「昭和十一年仲秋」の記載あり。	元(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年九月三十日/教育総監 陸軍中将 杉山元閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。0015-0-1の箇所に「国軍の使命達成/杉山新陸相語る」と題された新聞の切り抜き(新聞紙片での補修あり)の挟込あり。
0015	0	4	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[奥保夫揮毫](書)	—	—	1936	中秋(9)	(30)	(昭和)	丙子(11)	—	「危(か)在/先(か)人」。末尾に「丙子中秋」の記載あり。	保夫	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全日(※昭和11年9月30日)/陸軍少将 子爵 奥保夫閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	5	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[石川半三郎(浙泉)揮毫](書)	—	—	1936	9	30	昭和	11	—	「寸陰是宝」。	浙泉	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全日(※昭和11年9月30日)/経理学校長 陸軍少将 石川半三郎閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0015	0	6	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[今井清揮毫](書)	—	—	1936	9	30	昭和	11	—	「錦秋」。	今井	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年九月三十日来泉/第四師団長 陸軍中将 今井清閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	7	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[蓮沼蕃揮毫](書)	—	—	1936	9	30	昭和	11	—	「青松寿/色多」。※唐の詩人・孟郊の詩『西上経霊宝觀』一節。	蕃(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全日(※昭和11年9月30日)/教育総監部騎兵監 陸軍中将 蓮沼蕃閣下 ※蓮沼蕃の顔写真の掲載された新聞紙片を貼付	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	8	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[高橋貞夫揮毫](書)	—	—	1936	10	6	昭和	11	—	「有條/不紊」。	高橋貞夫	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年十月六日/兵器本廠長 陸軍中将 高橋貞夫閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	9	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[永持源次(桑弓)揮毫](書)	—	—	1936	10	6	昭和	11	—	「和氣満/堂」。	桑弓(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全日(※昭和11年10月6日)/陸軍中将 桑弓 永持源次閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	10	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[藤田進揮毫](書)	—	—	1936	初秋(10)	(6)	昭和	丙子(11)	—	「処(カ)万口/主一口」。末尾に「昭和丙子初秋」の記載あり。	進	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全日(※昭和11年10月6日)/千葉 陸軍中将 藤田進閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	11	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[笹本菊太郎(秋村)揮毫](俳句)	—	—	1936	10	6	昭和	11	—	「瀧本乃/湯の香も/高し秋/はれて」。	秋村	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年十月六日来泉/陸軍中将 秋村 笹本菊太郎閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	12	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[木造巳之蔵揮毫](書)	—	—	1936	秋(10)	(6)	(昭和)	丙子(11)	—	「至誠/一貫」。末尾に「丙子秋」の記載あり。	木造少将	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全日(※昭和11年10月6日)/名古屋兵器廠長 陸軍少将 木造巳之蔵閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	13	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[久村種樹揮毫](書)	—	—	1936	秋(10)	7	昭和	丙子(11)	—	「清風/高月」。末尾に「昭和丙子秋」の記載あり。	久村種樹(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十一年十月七日/陸軍技術本部 陸軍中将/「工学博士」(抹消) 久村種樹閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	14	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[多田礼吉揮毫](書)	—	—	1936	秋(10)	(7)	昭和	丙子(11)	—	「北海天/地有光/輝」。末尾に「昭和丙子秋」の記載あり。	多田禮吉(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全上(陸軍技術本部)/全(※陸軍中将)/工学博士 多田禮吉閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	15	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[内田壮一揮毫](短歌)	—	—	1936	(10)	(7)	昭和	11	—	「ラジュームの/湯滝に肩を/うたせつゝ/戦車の響/思ひ出る歌」。末尾に「昭和十年大演習の折」の記載あり。	内田壮一	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全上(陸軍技術本部)/陸軍少将/内田「蔵」(抹消)莊一閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	16	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[館哲二揮毫](書)	—	—	1936	仲秋	—	昭和	11	—	「至誠/通神」。末尾に「昭和十一年仲秋」の記載あり。	館哲二	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】内務省神社局長 館哲二閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0015	0	17	第十五号 陸軍大演習記念帖(萬秀帖)	[矢部潤二揮毫](書)	—	—	1936	秋(10)	(8)	昭和	丙子(11)	—	「以和/為貴」。末尾に「昭和丙子秋」の記載あり。	矢部潤二	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年十月八日来泉/陸軍被服本廠長 主計監 矢部潤二閣下	折本。「萬秀帖」所収。包紙収納(表書「第十五号 昭和十一年仲秋 北海道陸軍大演習 記念帖」、裏書「第一瀧本館 石川脩次」)。
0016	0	1	第十六号 豈礙白雲飛(邱壑清娛)	[林頼三郎(梅堂)揮毫](書)	1	25	1936	10	9	昭和	11	—	「天地有情」。	梅堂	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】十一、昭和十一年十月九日 司法大臣 林頼三郎閣下	折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十六号」、題箋「豈礙白雲飛[印・口静]」の記載)。
0016	0	2	第十六号 豈礙白雲飛(邱壑清娛)	[鹿野澄揮毫](書)	—	—	1936	10	11	昭和	11	—	「日月/無私/照」。	鹿野	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和11)年十月十一日 千住製絨所長/陸軍少将 鹿野澄閣下	折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十六号」、題箋「豈礙白雲飛[印・口静]」の記載)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0016	0	3	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(書) 清娛)	[松井石根揮毫](書)	-	-	1936	10	13	昭和	11	-	「既有七/泉何石/来七仙/翁」	石根	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十三、全(※昭和11)年十月十三日 陸軍大将 松井石根閣下	
0016	0	4	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(書) 清娛)	[永岡秀一揮毫](書)	-	-	1936	10	23	昭和	11	-	「至誠」。	秀一	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十四、全(※昭和11)年十月廿三日 柔道九段 永岡秀一殿	
0016	0	5	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(書) 清娛)	[大村卓一揮毫](書)	-	-	1937	1	1	昭和	12	-	「精誠/通於/神明」。末尾に「昭和十二年元旦」と記す。	卓一	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十五、昭和十二年一月二日 満鐵副総裁 大村卓一閣下	
0016	0	6	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(書) 清娛)	[土肥米之揮毫](書)	-	-	1937	春(2)	(16)	(昭和)	丁丑(12)	-	「誠」。末尾に「昭和丁丑春日」の記載あり。	米之	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十六、全(※昭和12)年二月十六日 北海道庁警察部長 土肥米之殿	
0016	0	7	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(書) 清娛)	[中山蕃揮毫](書)	-	-	1937	初春(2)	(23)	(昭和)	12	-	「湧泉千/態秀山/霊」。末尾に「十二年初春」と記載。	中山	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十七、全(※昭和12)年二月廿三日 軍馬補充部本部/陸軍中将 中山蕃閣下	
0016	0	8	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 画) 清娛)	[遊佐幸平揮毫](書 画)	-	-	1937	2	22	昭和	12	-	馬図。賛「月皎々」。紙本著色。	雲外(カ)(花押・Y)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十八、昭和十二年二月廿二日 陸軍少将 遊佐幸平閣下/(世界的馬術大家)	
0016	0	9	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(書) 清娛)	[羅集誼揮毫](書)	-	-	1937	2	(27)	(昭和)	丁丑(12)	-	「勝友如雲」。末尾に「丁丑二月遊北海道帰途書(カ)興(カ)」の記載あり。	関中 羅集誼	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十九、全(※昭和12)年二月廿七日 中華民国駐横浜総領事館副領事/駐函館弁事 羅集誼	
0016	0	10	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(画) 清娛)	[加藤顕清揮毫](画)	-	-	1937	2	27	昭和	12	-	画(干物の魚図)。	顕清	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第二十、全日(※昭和12年2月27日) 東京美術学校教授/加藤顕清殿	
0016	0	11	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(書) 清娛)	[橘成典揮毫](書)	-	-	1937	初夏(5)	(20)	昭和	丁丑(12)	-	「此影掃階/産不動/月穿潭底/水無痕」。末尾に「昭和丁丑初夏之日」と記載あり。	七十九翁典[印・大応] [印・成典]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十一、全(※昭和12)年五月二十日 札幌中央寺住職/橘成典老師殿	
0016	0	12	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(書) 清娛)	[入沢達吉揮毫](書)	-	-	1937	6	27	昭和	12	-	「温泉水滑/洗口脂」。	雲涛(カ)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十二、全(※昭和12)年六月二十七日 東京市杉並区西田町一ノ七四/侍医 々博 東大/名誉教授 入澤達吉殿	
0016	0	13	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 歌) 清娛)	[林きむ子揮毫](短歌)	-	-	1937	7	27	昭和	12	-	「いそつゝし いそかぬ旅の/身にてあらは地獄めぐりに/くらしてましを」。	きむ子	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十三、昭和十二年七月廿七日新舞踊家/林きむ子殿	
0016	0	14	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(書) 清娛)	[秋山白巖(隆道)揮毫](書)	-	-	1937	夏(5)	(25)	(昭和)	丁丑(12)	-	「雅通」。末尾に「龍集丁丑夏日 七十三叟」と記載あり。	白巖[印・隆道][印・白巖]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十四、昭和十二年五月廿五日(国土)頭山満氏友人/書家 秋山白巖殿	
0016	0	15	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(書) 清娛)	[小原直(直堂)揮毫](書)	-	-	1937	孟夏(6)	(28)	昭和	丁丑(12)	-	「以敬事/天則神/降」。末尾に「昭和丁丑孟夏」と記載あり。	直堂	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十五、全(※昭和12)年六月廿八日/前司法大臣 小原直閣下	
0016	0	16	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 毫)(書) 清娛)	[泉二新熊(奄龍)揮毫](書)	-	-	1937	7	20	昭和	12	-	「日進月新」。	奄龍	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】折本。「邱壑清娛」所収。秩收納(「第十六、全(※昭和12)年七月廿日来泉/検事総長 泉二新熊閣下	

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0016	0	17	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 清娛)	[川越文雄揮 毫](書)	-	-	1937	7	21	昭和	12	-	「堅実」。	文雄	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】十 七、全(※昭和12)年 七月廿一日来泉/ 前法制局長 川越 文雄閣下	折本。「邱壑清娛」所収。秩収納(「第十 六号」、題箋「豈礙白雲飛[印・口静]」の 記載)。
0016	0	18	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 清娛)	[光行次郎(学陽) 揮毫](書)	-	-	1937	8	9	昭和	12	-	「野草/幽花/流水/香」。	学陽[印・光行次 郎]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】十 八、昭和十二年八 月九日 前検事総 長 光行次郎閣下	折本。「邱壑清娛」所収。秩収納(「第十 六号」、題箋「豈礙白雲飛[印・口静]」の 記載)。
0016	0	19	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 清娛)	[和田亀治揮 毫](書)	-	-	1937	初秋(8)	(16)	昭和	12	-	「浴客集/如泉」。末尾に「昭和十二年初 秋」と記載あり。	亀治(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】十 九、全(※昭和12)年 八月十六日 陸軍 中將 和田亀治閣 下	折本。「邱壑清娛」所収。秩収納(「第十 六号」、題箋「豈礙白雲飛[印・口静]」の 記載)。
0016	0	20	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 清娛)	[五代目神田伯龍 揮毫](書)	-	-	1937	8	5	(昭和)	12		「北方の/秀地に/浴みして」。末尾に「一 二、八、五」の記載あり。	神田伯龍	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】二 十、全(※昭和12)年 八月五日 講談師 神田伯龍殿	折本。「邱壑清娛」所収。秩収納(「第十 六号」、題箋「豈礙白雲飛[印・口静]」の 記載)。
0016	0	21	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 清娛)	[荒井(カ)草雨揮 毫](画)	-	-	1937	11	—	昭和	12	-	水墨画(籠を持つ女性の図)。画の右下に 「於朝市」の記載あり。	草雨[印]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】二 十一、全(※昭和12) 年十一月 俳句宗 匠俳画家 芹沢草 雨殿	折本。「邱壑清娛」所収。秩収納(「第十 六号」、題箋「豈礙白雲飛[印・口静]」の 記載)。
0016	0	22	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 清娛)	[中村春堂揮 毫](書)	-	-	1938	8	11	昭和	13	-	「あたゝかき/神の/めくミを/お口ふかな (カ)/ゆふねの/なかに/身を/ひたしつゝ」。	春堂(印・春堂)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】二 十二、全(昭和)十三 年八月十一日 書 道大家 中村春堂 殿	折本。「邱壑清娛」所収。秩収納(「第十 六号」、題箋「豈礙白雲飛[印・口静]」の 記載)。
0016	0	23	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 清娛)	[高岡熊雄(鷹陵学 人)揮毫](書)	-	-	1937	12	3	昭和	12	-	「接人以誠」。	鷹陵学人[印・高 岡之印][印・熊 雄]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】二 十三、全(※昭和12) 年十二月三日 北 大総長 高岡熊雄 殿	折本。「邱壑清娛」所収。秩収納(「第十 六号」、題箋「豈礙白雲飛[印・口静]」の 記載)。
0016	0	24	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 清娛)	[多田禮吉揮 毫](書)	-	-	1938	春(2)	(23)	昭和	13	-	「国光」。末尾に「昭和十三年春」の記載あ り。	禮吉(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】二 十四、全(※昭和13) 年二月廿三日 陸 軍科学研究所長/ 陸軍中將 多田禮 吉閣下	折本。「邱壑清娛」所収。秩収納(「第十 六号」、題箋「豈礙白雲飛[印・口静]」の 記載)。
0016	0	25	第十六号 豈 礙白雲飛(邱壑 清娛)	[畑俊六揮毫](書)	-	-	1938	春(2)	(3)	昭和	13	-	「闊達無碍」。末尾に「昭和十三春」	俊六(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】二 十五、全(※昭和)十 三年二月三日 教 育総監 陸軍大將 畑俊六閣下	折本。「邱壑清娛」所収。秩収納(「第十 六号」、題箋「豈礙白雲飛[印・口静]」の 記載)。
0017	0	1	第十七号 雲 烟過眼	[秋山白巖(隆道) 揮毫](書)	1	14	1938	-	-	昭和	13	か	「佳趣」。末尾に「漢口陥落日/七十四口」 の記載あり。	白巖[印・隆 道][印・白巖]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】書 家 秋山白巖先生 昭和十 年 月 日来泉	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	2	第十七号 雲 烟過眼	[十五世市村羽左 衛門揮毫](画)	-	-	1935	-	-	昭和	10年	頃	画(和傘の図)。	羽左[印・十五世 口江]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】俳 優 市川(ママ)羽左 衛門殿 昭和 年月 日於東京/揮毫	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	3	第十七号 雲 烟過眼	[半井清揮毫](書)	-	-	1939	5	24	昭和	14	-	「北海/第一境」。	半井(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】北 海道庁/長官 半井 清殿 昭和十四年 五月廿四日来泉	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	4	第十七号 雲 烟過眼	[斉藤隆現揮 毫](書)	-	-	1943	6	8	昭和	18	-	「霊泉/長寿」。末尾に「昭和十八年六月八 日」と記す。	隆現[印・隆 現][印・口堂]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】真 言宗管長大僧正/ 隆現猊下 昭和十 八年六月八日来泉 揮毫	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	5	第十七号 雲 烟過眼	[岡本綺堂揮毫](書 画)	-	-	-	-	-	昭和	10	年代か	水墨画(大文字山の図)。賛「名に/残る/ 顔見世寒し/京の冬」。	綺堂	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】岡 本綺堂殿 当代第 一流の脚本作家に て専ら左/團次のた めニ脚本を作られ 有名な「夜叉王」 は全氏が作なり	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0017	0	6	第十七号 雲 烟過眼	[川村花菱揮毫](書 画)	-	-	-	-	-	昭和	10	-	年代か「一本が/二本/三人/ばかり/よべ」。	花菱	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】川 村花菱殿 新派脚 本家の第一人者に して/歌舞伎東劇等 ニ毎月新作/を上演 せる新口第一人者 之作家也	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	7	第十七号 雲 烟過眼	[長田秀雄揮 毫](書)	-	-	1936	11	-	(昭和)	11	-	「慵鬟高髻緑娑婆/早向蘭窓繡碧荷/刺到 鴛鴦欲断魂/暗停針綫蹙双蛾」。末尾に 「十一年十一月」の記載あり。	長田 秀雄	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】長 田秀雄殿 脚本家 にて市村座ニあり て尾上菊五/郎のた めニ脚本を作りつゝ ありし有/名な人なり 又勝太郎之小唄 の作者/たる長田幹 彦氏の令弟なり	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	8	第十七号 雲 烟過眼	[額田六福揮毫](俳 句・画)	-	-	-	-	-	-	-	-	水墨画(雀図)。賛「雪どけに/下駄おもげ なり/立女」。	六福	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】額 田六福殿 岡本先 生の門下にて澤田 正二/郎之顧問とす 「白野弁十郎」/等 の作あり本邦唯一 の劇作雑誌/「舞 台」の編輯長たり	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	9	第十七号 雲 烟過眼	[伊藤晴雨揮毫](俳 句・画)	-	-	-	-	-	-	-	-	画(歌舞伎「暫」の図(三升紋))。紙本著 色。賛「顔見せの/寒き(カ)梅や/四里四 方」。	晴雨[印・晴雨]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】伊 藤晴雨殿 古実二 通じたる画家にて 俳優(前記)にも/画 道を指導する奇抜 なる快男子也	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	10	第十七号 雲 烟過眼	[小浜関邨揮 毫](画)	-	-	1938	11	11	昭和	13	-	画(浜千鳥の図)。紙本著色。	関邨	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】小 浜関邨殿 昭和十 三年十一月十一日 来泉/旭川女学校 教師/北海道の洋 画家の大家高橋北 修氏/友人なり	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	11	第十七号 雲 烟過眼	[川口湘雲揮 毫](書)	-	-	-	-	-	-	-	-	「無我」。	湘雲[印・川口口 印][印・湘雲]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】川 口湘雲殿	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	12	第十七号 雲 烟過眼	[藤本来仙揮毫]	-	-	1943	6	3	昭和	18	-	画(蕪に鼠の図)。紙本著色。	来仙[印・ 来][印・仙]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】藤 本来仙殿 昭和十 八年六月三日登別 温泉にて約二十/ 年振りに御来場 揮毫せらる	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	13	第十七号 雲 烟過眼	[愛新覺羅憲原揮 毫](書)	-	-	1941	仲夏(8)	(11)	(昭和)	辛巳(16)	-	「山歌物語」。末尾に「辛巳仲夏」と記す。	憲原	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】憲 原閣下 満洲国大 使館附武官少将 書と禪/趣味なり 昭和十六年八月十 一日来泉/満洲国と しての皇族にて有 名なる川島/芳子氏 の令兄なり	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0017	0	14	第十七号 雲 烟過眼	[王允卿揮毫](書)	-	-	1944	9	12	昭和	19	-	「文化」。末尾に「石川先生正」と記す。	王 允卿	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】満 洲国大使王允卿閣 下 昭和十九年九 月十二日来泉/第 一滝本館にて揮毫	折本。「雲烟過眼」所収。帙等なし。0017- 0-6~7の間で帳はずれ(取扱注意)。
0018	0	1	第十八号 青 山帖(芳墨帖)	[出淵勝次揮 毫](書)	1	14	1939	夏	-	昭和	乙卯(14)	-	「青山不動/白雪去来」。末尾に「昭和乙卯 夏/為石川君」の記載あり。	出淵老縦	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭 和十四年 月 日来 十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温 館/元駐米大使 出 泉 石川脩次」の記載)。 淵勝次閣下	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第 和十四年 月 日来 十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温 館/元駐米大使 出 泉 石川脩次」の記載)。 淵勝次閣下

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0018	0	2	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[長谷川清揮毫](書)	-	-	1939	8	30	昭和	14	-	「静神/養気」。	清	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和14)年八月三十日来館/横須賀鎮守府司令長官/海軍大将 長谷川清閣下	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0018	0	3	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[大木豊平揮毫](画)	-	-	1939	8	31	昭和	14	-	画(瓜に飛蝗の図)。紙本著色。	豊平[印・豊平]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和14)年八月三十一日来泉/帝展口監査委員 画家 大木豊平殿	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0018	0	4	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[鈴木翠軒揮毫](書)	-	-	1939	8	14	昭和	14	-	「抱一」。	翠軒	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和14)年(八月十四日来館/文部省書方手本書者 鈴木翠軒殿	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0018	0	5	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[大口喜六(蓊山外史)揮毫](書画)	-	-	1940	7	29	昭和	15	-	水墨画(菊花の図)。賛「霜下之傑」(※菊のこと)。	蓊山外史	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十五年七月二十九日来泊、財界ノ重鎮/代議士 愛知県豊橋市長 大口喜六殿	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0018	0	6	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[増山多一(楽道)揮毫](書)	-	-	1940	6	15	昭和	15	-	「白雲抱/幽石」。	楽道[印・増山多印][印・楽口]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十五年六月十五日来泊/東京日本高等女学校教師 増山楽道殿	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0018	0	7	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[土井晚翠(林吉)揮毫](短歌)	-	-	1940	10	5	昭和	15	-	「音にきゝし/いでゆ名どころ/登別/けふたづね来て/目をおどろかす」。0021-12に内容は同じ(石川の記載する来泉日も同日)。	晚翠	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十五年十月五日来泊/文豪 晚翠 土井林吉殿	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0018	0	8	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[阮振鐸揮毫](書)	-	-	1940	10	10	昭和	15	-	「経営/有道」。	阮振鐸	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十五年十月十日来泊/満洲国大使 阮 振鐸閣下	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0018	0	9	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[和田義雄(義山)揮毫](書)	-	-	1941	2	23	昭和	16	-	「法(カ)道/実践」。	義山	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十六年二月廿三日来泊/陸軍省軍馬補充部/陸軍中将 和田義雄閣下	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0018	0	10	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[西尾寿造揮毫](書)	-	-	1941	4	20	昭和	16	-	「攻則/有余」。	寿造(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和16)年四月二十日来泊(第一滝本館)/前支那派遣軍総司令官/陸軍大将 西尾寿造閣下	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0018	0	11	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[宇垣一成(葺水)揮毫](書)	-	-	1940	11	3	昭和	15	か	「安居楽業」。末尾に「為石川氏」の記載あり。	葺水[印・宇垣式成]	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】全(※昭和)十五年十一月三日(昭和十三年 月頃来泉/元総理大臣陸軍大将 宇垣一成閣下	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0018	0	12	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[吉田善吾揮毫](書)	-	-	1941	春(5)	(9)	昭和	16	-	「権飛/五大洲」。末尾に「昭和十六年春日」の記載あり。	善吾(花押)	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十六年五月九日/元聯合艦隊司令長官前海軍大臣/海軍大将 吉田善吾閣下	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0018	0	13	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[遠藤喜一揮毫](書)	-	-	1941	6	14	昭和	16	-	「建(カ)徳」。	喜一	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十六年六月十四日来泉/横須賀鎮守府参謀長/海軍少将 遠藤喜一閣下	折本。「芳墨帳」所収。秩収納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0018	0	14	第十八号 青山帖(芳墨帖)	[堀丈夫揮毫](書)	-	-	1943	5	28	昭和	18	-	「天を(カ)拝(カ)し/地に拝みて/勝戦」。	頑口	(石川脩次)	【巻頭の芳名録】昭和十八年五月廿八日來駕(拙宅ニテ御揮毫)/梨本宮殿下随行/陸軍中將 堀丈夫閣下/表紙 全閣下御揮毫	折本。「芳墨帳」所収。秩收納(表面に「第十八号」、題箋「青山帖」、裏書「登別温泉 石川脩次」の記載)。
0019	0	1	第十九号 芳墨帖	[旭華揮毫](書)	1	9	-	-	-	-	-	-	「文人不愛財貨/武人不惜生命/則天下泰平」。	旭華	(石川脩次)	-	折本。「芳墨帖」所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅莊 石川脩次」と記載)。秩收納(「第十九号」、題箋「芳墨帖」)。
0019	0	2	第十九号 芳墨帖	[手代木隆吉(胡山)揮毫](書)	-	-	-	-	-	昭和	-	か	「心身一致/是至誠」。	胡山[印・隆吉之印][印・胡山]	(石川脩次)	-	折本。「芳墨帖」所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅莊 石川脩次」と記載)。秩收納(「第十九号」、題箋「芳墨帖」)。
0019	0	3	第十九号 芳墨帖	[斉藤口堂揮毫](書)	-	-	-	-	-	-	-	-	「育ほと 土に手を突く柳かな」。	斉藤口堂[印]	(石川脩次)	-	折本。「芳墨帖」所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅莊 石川脩次」と記載)。秩收納(「第十九号」、題箋「芳墨帖」)。
0019	0	4	第十九号 芳墨帖	[谷実父揮毫](書)	-	-	-	-	-	昭和	-	か	「雪後始知/松柏操事/難方見丈/夫心」。	実夫[印・谷實夫印][印]	(石川脩次)	-	折本。「芳墨帖」所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅莊 石川脩次」と記載)。秩收納(「第十九号」、題箋「芳墨帖」)。
0019	0	5	第十九号 芳墨帖	[海瀬(水谷)昇揮毫](書)	-	-	-	-	-	昭和	-	か	「洗心/無我」。	海瀬 昇[印・水谷昇]	(石川脩次)	-	折本。「芳墨帖」所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅莊 石川脩次」と記載)。秩收納(「第十九号」、題箋「芳墨帖」)。
0019	0	6	第十九号 芳墨帖	[浅沼一道(野人一道)揮毫](書)	-	-	1981	春	-	昭和	辛酉(56)	-	「登山/□□」。冒頭に「昭和辛酉春日」、末尾に「北海遊中」とある。	野人一道	(石川脩次)	-	折本。「芳墨帖」所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅莊 石川脩次」と記載)。秩收納(「第十九号」、題箋「芳墨帖」)。昭和辛酉は1981年になるが石川脩次の死後となるため揮毫を受けた経緯が不明。子息の代に美術館をオープンしてからもらい受けたものか。
0019	0	7	第十九号 芳墨帖	[加賀尾秀忍揮毫](書)	-	-	1954	8	18	昭和	29	-	「法界何勇/問自他見/聞知覚眼/中華」。	無董[印・秀][印・忍]	(石川脩次)	【挟込の野紙】最高戦犯者最後の絞首刑を見届けた/元モンテンルパ教誨師/加賀尾秀忍僧正御揮毫/昭和廿九年八月十八日來泉/法界何勇問自他/見聞知覚眼中華/無董	折本。「芳墨帖」所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅莊 石川脩次」と記載)。秩收納(「第十九号」、題箋「芳墨帖」)。
0019	0	8	第十九号 芳墨帖	[熊谷揮毫](書画)	-	-	1980	9	21	昭和	55	-	書画。賛「仙境之呼吸(カ)/茲に見る」。末尾に「昭和五十五年九月二十一日」「石川様江」の記載あり。	熊谷	(石川脩次)	-	折本。「芳墨帖」所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅莊 石川脩次」と記載)。秩收納(「第十九号」、題箋「芳墨帖」)。昭和55(1980)年は石川脩次の死後となるため揮毫を受けた経緯が不明。子息の代に美術館をオープンしてからもらい受けたものか。
0019	0	9	第十九号 芳墨帖	[稲畑汀子揮毫](俳句)	-	-	-	-	-	昭和	-	-	「火の山の/裾に/温泉の香と/朴の花」。	汀子[印・汀子]	(石川脩次)	-	折本。「芳墨帖」所収(裏表紙に「北海道登別温泉 梅莊 石川脩次」と記載)。秩收納(「第十九号」、題箋「芳墨帖」)。
0020	0	1	扇面帖	[大島徳太郎(君川)揮毫](書画)	1	18	-	-	-	大正	-	か	青竹図。紙本着色。賛「雨/洗涓々/淨/風吹/細々/香」(杜甫の『杜少陵集』(巻十四))。「涓々」ではなく「娟々」のようである。	君川[印・大島徳印][印・君川]	(石川脩次)	【台紙】名古屋/書道大家/大島君川氏	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙收納。紙本墨書。
0020	0	2	扇面帖	[飯沼南涯揮毫](書)	-	-	-	春	-	(明治)	戊申(41)	か	「啼鶯声湿雨/余天/緑影香煙口/野田/隔口春深人/独立/落花吹送竹/関前」。末尾に「戊申春日録/旧作」と記す(登別を訪れた日ではなく、この歌を書いた日か)。	南涯[印・南涯]	(石川脩次)	【台紙】名古屋書家/飯沼南涯	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙收納。紙本墨書。
0020	0	3	扇面帖	[吉嗣拝山揮毫](書画)	-	-	1914	春	-	大正	3	-	水墨画(稲穂と雀の図)。賛「植交趾口/鳥菟金叙/盆色香櫛/分行播向/黄墳之野/種宜肥水/之郷刈瑯/瑯而孰弁/供摩揚而/非常倉異/口寧知/欽樂城非/壬舎那識/炊香天竺/微豊清流/志瑞円斎/烏節之形/色々紅霞/之口半/夏而先成/歴九登而/最貴」。末尾に「大正三年甲寅春日」の記載あり。	拝山[印]	(石川脩次)	【台紙】記載なし	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙收納。紙本墨書。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0020	0	4	扇面帖	[大町桂月(芳衛)揮毫](書)	-	-	1921	夏	-	大正	10	-	「皇国の民たるに負/かす(※ず) 我等の祖先を/辱めす(※ず) 身体を鍛/へて寒暑を物とせず(※ず)/精神を鍊って 生死に動かす(※ず) 博く/深く知る 一身を/天職に捧く(※ぐ) 人を/愛す 千辛万苦/の間にも微笑す/眼を古今東西/に注く(※ぐ) 俯仰/して天地に恥ち(※じ)す(※ず)」。末尾に「大正十年夏日」と記す。	桂月[印・大町芳衛][印・桂月]	(石川脩次)	【台紙】文豪/大町桂月氏	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本墨書。
0020	0	5	扇面帖	[大町桂月(芳衛)揮毫](短歌)	-	-	1921	夏	-	大正	10	か	「おそろ/しき/地獄の/谷の/底に来て/口石楠/花の花を/見しき(カ)」。	桂月[印・桂月]	(石川脩次)	【台紙】記載なし	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本墨書。
0020	0	6	扇面帖	[石原義衛(梯山)揮毫](漢詩)	-	-	1928	夏	-	(昭和)	戊辰(3)	か	「秀口/而高/艶/燦然/輝旭/陽/口風/一口/曳/花気/満山/香」。末尾に「題桜」、「戊辰夏」と記す。	梯山[印・石義][印・梯山]	(石川脩次)	【台紙】記載なし	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。絹本墨書。
0020	0	7	扇面帖	[大橋二水揮毫](漢詩)	-	-	1925	6	-	大正	14	-	「三口坐/湯消口/痾/口口忘(カ)/左俛拝(カ)/影/口里番/口如為/口/鷄口定/口口海/波」。末尾に「登別不老温泉/口設(カ)之一口以/石川口兄」と記す。	二水[印・弘印][印・二水]	(石川脩次)	【台紙】大正十四年/六月来泉/大橋二水氏/揮毫	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。絹本墨書。
0020	0	8	扇面帖	[本山彦一(松陰)揮毫](書)	-	-	1928	春	-	(昭和)	(3)	頃か	「嗜酒平生/嫌酒客/好茶毎(カ)不/為茶人/和敬在茶/酒相楽/与君和楽」。末尾に「天下春/七十五叟(※翁の意)」と記す。右上の印は「独醒」。	松陰(印・本山)	(石川脩次)	【台紙】大阪毎日/東京朝日日/新聞社長/本山彦一氏	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本墨書。
0020	0	9	扇面帖	[山屋他人揮毫](俳句)	-	-	1921	猛夏	-	(大正)	辛酉(10)	-	「翠巒口/口巖に/霧や/温泉の/煙」。末尾に「辛酉猛夏/録同門山崎氏之詠」と記す。	他人	(石川脩次)	【台紙】海軍中將/山屋他人/閣下	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。絹本墨書。
0020	0	10	扇面帖	[丹波敬三揮毫](書)	-	-	-	-	-	大正～昭和	-	か	「浴天恵」。	光(カ)徳(印・丹波)	(石川脩次)	【台紙】同仁会副会長/薬学博士/丹波敬三氏	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本墨書。
0020	0	11	扇面帖	[フランス大使 デ・ド・マルテル揮毫](署名)	-	-	1931	10	8	昭和	6	-	「D bmartel」。0020-0-11～13と同じ扇面に記載。	-	(石川脩次)	【台紙】昭和六年/十月八日/登別温泉二/来遊/フランス大使マルテル伯	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本墨書。
0020	0	12	扇面帖	[エル司令長官揮毫](署名)	-	-	1931	10	8	昭和	6	-	「B.HERP」。0020-0-11・13と同じ扇面に記載。	-	(石川脩次)	【台紙】エル司令長官	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本墨書。
0020	0	13	扇面帖	[ロザッチ中佐揮毫](署名)	-	-	1931	10	8	昭和	6	-	「V.Pe[]」。0020-0-11・12と同じ扇面に記載。	-	(石川脩次)	【台紙】ワルデックルソー艦長 ロザッチ中佐	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本墨書。
0020	0	14	扇面帖	[イタリア大使 デラトレイ揮毫](署名ほか)	-	-	1926	6	25	大正	15	-	イタリア語での記載。記載の中に「Noboribetsu 25/6 1926」とあり。	-	(石川脩次)	【台紙】伊太利大使/デラトレイ氏	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本ペン書。
0020	0	15	扇面帖	[ポーランド特命全権公使スタニスラス・パーテク揮毫](署名)	-	-	-	-	-	大正	-	か	「パーテク/口(Pカ)b(カ)atek」。	-	(石川脩次)	【台紙】波蘭(※ポーランド)共和国/特命全権公使/スタニスラス/パーテク氏	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本墨書。
0020	0	16	扇面帖	[エリオット揮毫](署名カ)	-	-	-	-	-	大正	-	か	「chris」。	-	(石川脩次)	【台紙】米国親日大家/エリオット氏	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本ペン書。
0020	0	17	扇面帖	[ジョンバチェラー揮毫](署名)	-	-	1922	8	10	大正	11	-	「Jon(ママ) ButcheIr(ママ).Sapporo August 10 1922/“god is Love”」。	-	(石川脩次)	【台紙】アイヌ研究家/バ(ママ)チェラー氏	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本ペン書。
0020	0	18	扇面帖	[石光真臣揮毫](書)	-	-	1921	7	6	大正	10	-	「清雲気」。	真臣	(石川脩次)	【台紙】大正十年/七月六日/登別温泉/来駕/馬政局長官/陸軍中將/石光真臣閣下	折本。「扇面帖」所収(題箋貼付(題字なし)、台紙見開きに扇形の紙または絹を貼付し揮毫、台紙部分に石川による覚書の記載あり)。帙収納。紙本墨書。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0021	1	0	[色紙帳(小)]	[中村春堂揮毫](短歌・書)	1	-	1938	8	11	昭和	13	-	「犯したる/つみなき身/にハ/血の池の/地こくを/みても/おそれさり/けり」。	春堂[印]	(石川脩次)	【裏面】昭和十三年八月十一日来泉/書家大家中村春堂先生/御揮毫/登別温泉地獄谷の歌	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	2	0	[色紙帳(小)]	[青木郭公揮毫](俳句)	1	-	1936	11	8	昭和	11	-	「花の極楽/百メートル/にして/地獄谷」。	郭公[印・青葉]	(石川脩次)	【裏面】昭和十一年十一月八日/登別温泉にて/青木郭公	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	3	0	[色紙帳(小)]	[沼田一雅揮毫](画)	1	-	1935	10	5	昭和	10	-	猪図。紙本著色。	一雅(花押)	(石川脩次)	【裏面】昭和十年十月五日/登別温泉二来遊/京都市伏見区正覚町官舎/京都高等工芸学校/東京美術学校 教授/彫刻界/ノ權威者 沼田一雅氏/御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。色紙裏面に「旧土人の工芸指導」という見出しの新聞紙片貼付あり(枠外に「十年十月五日タイムス」の書込み)。
0021	4	0	[色紙帳(小)]	[四世松永和風揮毫](書)	1	-	1948	4	8	昭和	23	-	「寿楽」。	四世家元和風	(石川脩次)	昭和廿三年四月八日来泉/長唄家元松永和風師/揮毫/登別温泉梅荘/石川脩次	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	5	0	[色紙帳(小)]	[諸井華畦揮毫](書)	1	-	-	-	-	大正	-	か	「龍出洞門常/作雨鶴巢松/樹不知年」。	華畦女史[印・諸井久楽][印・華畦]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))、法量幅20.8cm/高さ24.1cm/厚さ6.7cm)。色紙裏面左下に「色紙小 5」の書込み(鉛筆)・押印(家書画「八六」(ペン)号)あり。
0021	6	0	[色紙帳(小)]	[伊藤晴雨揮毫](画)	1	-	1931	8	6	昭和	6	-	入浴する女図。賛「登別いてゆの町の灯の影に/女の肌のほのみゆるかな」。	晴雨[印・晴雨]	(石川脩次)	昭和六年八月六日/伊藤晴雨画伯/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。『市史ふるさと登別』下巻523頁に掲載。
0021	7	0	[色紙帳(小)]	[野上大業揮毫](画)	1	-	-	-	-	昭和	-	カ	日和山・大湯沼図。賛「望/日和山/大湯沼」。	大業(印・大業)	(石川脩次)	北海道登別温泉/二大名勝ノ一/大湯沼ノ景/野上大業画伯/揮毫/石川脩次	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。『市史ふるさと登別』下巻523頁に掲載。
0021	8	0	[色紙帳(小)]	[野上大業揮毫](画)	1	-	-	-	-	昭和	-	カ	地獄谷図。賛「登別温泉地獄/羅漢岩」。	大業(印・大業)	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	9	0	[色紙帳(小)]	[青木郭公揮毫](俳句)	1	-	1936	11	8	昭和	11	-	「七彩の雲か/竜宮か(カ)/大湯殿」。冒頭に「登別大観」と記す。	郭公[印・青葉]	(石川脩次)	昭和十一年十一月八日来泉/青木郭公	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	10	0	[色紙帳(小)]	[与謝野晶子揮毫](短歌)	1	-	1931	6	1	昭和	6	-	「ことなれる/世界の門を/登別/くゞり/入りこし/こゝち/こそすれ」。	晶子	(石川脩次)	[石川脩次カ]歌人/与謝野晶子/昭和六年六月一日来泉	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	11	0	[色紙帳(小)]	[巖谷小波揮毫](句)	1	-	1921	-	-	大正	10	-	「砕けても／＼/月の/泉かな」。※インターネット上にもこの句の短冊などが出ている。	小波(印・小波)	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。色紙裏面に「童話作家/巖谷小波/大正十年来泉」の書込みあり(鉛筆)。
0021	12	0	[色紙帳(小)]	[土井晚翠揮毫](短歌)	1	-	1940	10	5	昭和	15	-	「音にききし/いでゆ 名どころ/登別/けふ たづね来て/目をおどろかす」。	晚翠	(石川脩次)	昭和十五年十月五日/登別温泉二来遊/文豪土井晚翠先生/作歌 揮毫/石川脩次	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	13	0	[色紙帳(小)]	[清水対岳坊揮毫](画)	1	-	1931			昭和	6	-	膳をとる二人の男性の図。添え書き「漫画家の客」。	対岳坊	(石川脩次)	【裏面】東京漫画大家/対岳坊揮毫/昭和六年/登別温泉来遊	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	14	0	[色紙帳(小)]	[(中村)華洞揮毫]	1	-	1933	初秋	-	昭和癸酉	(8)	-	富士図。賛「東海/神秀」。末尾に「昭和癸酉初秋」と記す。	華洞[印・中邨蘭印][印]	(石川脩次)	【裏面】昭和八年八月十八日来泉/東京書家/中村華洞氏	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	15	0	[色紙帳(小)]	[藤本来仙揮毫](花鳥図)	1	-	-	-	-	昭和	-	か	花鳥図。	来仙[印・来仙]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0021	16	0	[色紙帳(小)]	[国崎登揮毫](書)	1	-	1941	1	25	昭和	16	-	「清明」。	国崎 登	(石川脩次)	【裏面】昭和十六年一月廿五日/登別温泉ニ御来駕/旭川師団長/陸軍中将国崎登閣下/御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	17	0	[色紙帳(小)]	[二代目江戸家猫八揮毫](書)	1	-	1947	7	8	昭和	22	-	「宝(カ)故」。	東宝名人会 戸家 猫八	江 (石川脩次)	【裏面】昭和廿二年七月八日来泉/有名な物まねの名人/猫八氏揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	18	0	[色紙帳(小)]	[林頼三郎(梅堂)揮毫](書)	1	-	1952	8	17	昭和	27	-	「心和氣/暢」。	梅堂	(石川脩次)	【裏面】昭和廿七年八月十七日/登別温泉グランドホテルにて/中央大学総長(元検事総長)/林頼三郎閣下/御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	19	0	[色紙帳(小)]	[頼母木桂吉揮毫](俳句)	1	-	1934	9	18	昭和	9	-	「非常時の/かくこいかめし/兜むし」。	春陽 ※国立国会図書館HPでは号は「喜陽」とするが、本資料上は「春陽」と読める。	(石川脩次)	【裏面】昭和九年九月十八日/北海道登別温泉ニ於テ/民政党総務/頼母木桂吉殿/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	20	0	[色紙帳(小)]	[原嘉道揮毫](書)	1	-	1928	8	9	昭和	3	-	「至公/至平」。	嘉道	(石川脩次)	【裏面】昭和三年八月九日/北海道登別温泉ニ来遊/司法大臣法学博士原嘉道閣下/揮毫/石川脩次	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	21	0	[色紙帳(小)]	[氣賀高次揮毫](書)	1	-	1928	8	16	昭和	3	-	「山高/水長」。末尾に「昭和三年盛夏」と記す。	氣賀高次	(石川脩次)	【裏面】昭和三年八月十六日/登別温泉来遊/札幌鉄道局長/氣賀高次氏揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	22	0	[色紙帳(小)]	[上野安太郎揮毫](書)	1	-	1928	8	16	昭和	3	-	「臥月/眠雲」。	上野安太郎	(石川脩次)	【裏面】昭和三年八月十六日/北海道登別温泉来遊/鉄道政務次官/上埜安太郎閣下揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	23	0	[色紙帳(小)]	[諸井華畦揮毫](書)	1	-	-	-	-	大正	-	か	「福林/寿域」。	華畦女史[印・諸井久楽][印・華畦]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	24	0	[色紙帳(小)]	[松井正子揮毫](短歌)	1	-	1924	9	10	大正	13	-	「湯あミして/こゝちよきなる/ゆの元も 見れハ/おそろし/大地獄谷」。	正子	(石川脩次)	【裏面】子爵/松井康昭御母堂/正子女史書/大正十三年九月十日/北海道登別温泉/御来泉/際/作歌御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	25	0	[色紙帳(小)]	[鬼倉重次郎(十二龍)揮毫](達磨図)	1	-	1928	夏	-	昭和	3	-	達磨図。賛「三界/有眼下」。画賛の他に左から「昭和三年/夏日於/登別温泉/為石川雅兄」と記す。	十二龍(花押)	石川雅兄	【裏面】阿部政務局長暗殺事件/並二故大隈重信候(ママ)爆弾事件/関係者鬼倉重次郎氏/来泉揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	26	0	[色紙帳(小)]	[土方寧揮毫](書)	1	-	1928	8	9	昭和	3	-	「修身齊家/■調理郷/君氏同治/国家安泰/万々歳」。末尾に「昭和三年八月」と記す。	坊寧	(石川脩次)	【裏面】昭和三年八月九日/北海道登別温泉ニ/来遊/法学博士土方寧氏/揮毫/石川脩次	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	27	0	[色紙帳(小)]	[海董(島津公爵(忠重カ)揮毫](書)	1	-	1936	-	-	昭和	11	-	「和風」。	海董(花押)	(石川脩次)	【裏面】昭和十一年/来泉/島津公爵/御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	28	0	[色紙帳(小)]	[秋山白巖揮毫](短歌)	1	-	1937	5	25	丁丑(昭和)	12	-	「書之文字のよき/もあしきも筆なら/て 心と腕によるへ(弊)/かりけり」。末尾に「丁丑夏日/七十三叟(※叟は老人の尊称)」と記す。	白巖[印・隆道][印・白巖]	(石川脩次)	【裏面】昭和三年五月廿五日/北海の泉都登別ニ於テ/御揮毫/松本市秋山白巖先生	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0021	29	0	[色紙帳(小)]	[田島勝太郎揮毫](書)	1	-	1931	8	12	昭和	6	-	「白雲江/楓郷」。	田島	(石川脩次)	【裏面】昭和六年八月十二日来泉/商工省事務次官/田島勝次(ママ) 郎閣下/登別温泉/第一滝本館口(判読不能)宿	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。※石川は「勝次郎」と記載しているが当時の商工省次官は「勝太郎」のため誤記カ
0021	30	0	[色紙帳(小)]	[佐藤質揮毫](書)	1	-	1945	4	12	昭和	20	-	「玉泉」。	中将佐藤	(石川脩次)	【裏面】昭和二十年四月十二日/登別温泉第一滝本館御来泊/前中支南支司令官/陸軍中将佐藤質閣下/御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0021	31	0	[色紙帳(小)]	[松井茂揮毫]	1	-	1928	8	24	昭和	3	-	「人生海水/是似世路/恰如風波」。末尾に「昭和戊辰夏」と記す。	茂(印・松井)	(石川脩次)	【裏面】昭和三年八月廿四日/北海道登別温泉ニ/来遊/元愛知県知事/錦鶏間祇候/正三位勲一等松井茂閣下/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0021	32	0	[色紙帳(小)]	[下村正助揮毫]	1	-	1938	10	24	昭和	13	-	「皇風/宣揚」。	正助(花押)	(石川脩次)	【裏面】昭和十三年十月廿四日来泉/大湊要港部司令官/海軍少尉下村正助閣下/御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。色紙裏面に「第一滝本館支配人/石川脩次」の書込みあり(鉛筆)
0021	33	0	[色紙帳(小)]	[菊野(海軍少将)揮毫]	1	-	1935	9	6	昭和	10	-	「流水不/争先」。	子直■	(石川脩次)	【裏面】昭和十年九月六日/第四艦隊室蘭二入港/海軍少将菊野閣下/来泉御揮毫/石川脩次	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0021	34	0	[色紙帳(小)]	[菊野(海軍少将)揮毫]	1	-	1935	9	(6)	昭和	10	-	「誠者天之道也/誠之者人之道也」。	有(カ)芳	(石川脩次)	【裏面】昭和十年九月六日/第四艦隊室蘭二入港/海軍少将菊野閣下/登別温泉ニ/御来駕揮毫/石川脩次	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0021	35	0	[色紙帳(小)]	[東武揮毫](花図)	1	-	1936	2	25	昭和	11	-	花図 賛:馨香/造/化	[印・東武]	(石川脩次)	【裏面】昭和十一年二月廿五日来泉/元農林次官東武氏揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。色紙裏面に登別温泉第一滝本館のスタンプ2つ押印(いずれも日付は「11.2.26」となっている)あり。
0021	36	0	[色紙帳(小)]	[渡辺兵四郎(米翁)揮毫](俳句)	1	-	-	-	-	大正～昭和	-	カ	俳句「七転ひ/無事に/八起の/瓢かな」に瓢筆図を添える。末尾に「録自■詩李白作/梅翁 恵存」「昭和二十年仲秋」と記す。	米翁[印・米翁][印]	(石川脩次)	【裏面】元小樽市長/渡邊兵四郎翁/揮毫/嗣子鉄太氏ヨリ拝受	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0021	37	0	[色紙帳(小)]	[呉恵文揮毫](漢詩)	1	-	1945	仲秋	—	昭和	20	-	「春眠不覚曉/処々聞啼鳥/夜来風雨声/花落知多少」。孟浩然作の詩。しかし、末尾には「李白作」と書かれている。理由は不明。	蘇州 呉恵文	梅翁(石川脩次)	—	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0021	38	0	[色紙帳(小)]	[藍亭山人揮毫](画)	1	-	1938	6	17	昭和	13	-	山林図。	藍亭山人[印・藍亭]	(石川脩次)	【裏面】昭和十三年六月十七日/登別温泉ニ於て揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0021	39	0	[色紙帳(小)]	[米澤(カ)天涯揮毫](書)	1	-	—	—	—	—	—	-	「瑞色/鮮」。	天涯[印・天涯]	(石川脩次)	—	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。表麴右上の印は「米澤」(カ)。米澤なら「天崖」のため資料名は「(カ)」とした。
0021	40	0	[色紙帳(小)]	[柳原義光(華山)揮毫]	1	-	1924	夏	—	大正甲子	13	-	「悠々不/迫」。末尾に「大正甲子夏日」と記す。	華山義光[印・柳原義光之■][印・華山仙■]	(石川脩次)	—	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0021	41	0	[色紙帳(小)]	[賜(陽カ)東揮毫]	1	-	—	—	—	—	—	-	「養其/神」。	賜(陽カ)東(花押)	(石川脩次)	—	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0021	42	0	[色紙帳(小)]	[[](判読不能)揮毫]	1	-	—	—	—	—	—	-	花鳥図(梅花図)。画賛:疎影/横斜	[](判読不能)	(石川脩次)	—	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0021	43	0	[色紙帳(小)]	[林[]揮毫](書・短歌)	1	-	-	-	-	-	-	-	「さくらはな/咲にけ羅(ら)しな/あし日(ひ)きの/山のかひより/ミ/遊(ゆ)るしら/雲」。	[印・林][印・号カ]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	44	0	[色紙帳(小)]	[山野紅蘭揮毫](書・短歌)	1	-	-	-	-	-	-	-	「とるひとの/まに／＼なるを/さたな/な(マ)しと/つミおふ筆や/くるしかるらむ」。	紅蘭[印・紅蘭][印・徳(カ)印]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	45	0	[色紙帳(小)]	[水島爾保布(無弓)揮毫](踊子図)	1	-	-	-	-	-	-	-	踊子図。画賛「軽風吹■玉/致(カ)馨細々蕊珠雲/覚(カ)滞(カ)記得紗幘(カ)薌澤(カ)/伴微聞一曲雨淋鈴」。	爾■■[印・無][印・弓]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	46	0	[色紙帳(小)]	[水島爾保布(無弓)揮毫](羊蹄図)	1	-	-	-	-	-	-	-	羊蹄山の絵カ。「羊蹄追憶/往年俱知安/客中所見」の語を添える。	(印・無弓)	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	47	0	[色紙帳(小)]	[水島爾保布(無弓)揮毫](火山図カ)	1	-	-	-	-	-	-	-	火山図(カ)	爾[印・無][印・弓]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	48	0	[色紙帳(小)]	[水島爾保布(無弓)揮毫](川魚図)	1	-	-	-	-	-	-	-	川魚図。画賛「漂碧無魚/躍樹(カ)■稀/鳥■追々■/霧(カ)起知是雷(カ)/山嶺」。末尾に「層雲峽■作」と記す。	爾[印・無][印・弓]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	49	0	[色紙帳(小)]	[[](不明)揮毫](山水図(彩色))	1	-	-	-	-	-	-	-	山水画(手前に松、奥に山を配する)。彩色あり。	(印・雅(カ))	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0021	50	0	[色紙帳(小)]	[[]雅代揮毫]	1	-	-	-	-	-	-	-	花図。	雅代[印]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。絹本着色。
0022	1	0	[色紙帳(大)]	[伊藤晴雨揮毫](画)	1	-	1931	8	6	昭和	6	-	湯宿の女図。画賛:極楽は/こゝろに柱/前に酒 左右に女/ふところにかね/と古人のうたを/記して(※停)る	晴雨[印・晴雨]	(石川脩次)	【裏面】昭和六年八月六日来泉/帝劇及新橋劇場/バック監督/東京市本郷区駒込/動坂町二十三番地/画伯伊藤晴雨氏/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	2	0	[色紙帳(大)]	[松永和風揮毫](書・長唄)	1	-	1937	8	5	昭和	12	-	「よせかえる 神代なからの/浪の音 ちりの世/遠きしらへかな」。	和風	(石川脩次)	【裏面】昭和十二年八月五日来泉/東京市赤坂区中央町六/長唄師匠/松永和風殿/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	3	0	[色紙帳(大)]	[光行次郎揮毫](書)	1	-	1937	8	9	昭和	12	-	「水急不/流月」。	学陽[印・光行次郎]	(石川脩次)	【裏面】昭和十二年八月九日/於北海道登別温泉/前検事総長/光行次郎閣下/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	4	0	[色紙帳(大)]	[桑原翠邦揮毫](書)	1	-	1934	7	29	昭和	9	-	「順幽/独」。	翠邦[印][印]	(石川脩次)	【裏面】昭和九年七月廿九日/北海道登別温泉来遊/書聖天来書学院/桑原清美氏揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	5	0	[色紙帳(大)]	[久留島武彦揮毫](画)	1	-	1931	秋		昭和	6	-	馬の玩具図。右端に「昭和六辛未秋」と記す。	たけひこ[印・久留島氏][印・武彦]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	6	0	[色紙帳(大)]	[佐々木信綱揮毫](短歌)	1	-	1939	9	11	昭和	14	-	「北海の/一の湯/の(農)郷/いてゆたに/人/つとひ/つとふ/春夏/秋/ふ(布)ゆ(遊)」。	信綱	(石川脩次)	【裏面】昭和十四年九月十一日/栗林加寿刀自歌碑除幕式/参列佐々木信綱先生詠草	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	7	0	[色紙帳(大)]	[小山栄達揮毫](画)	1	-	1938	12	-	昭和	13	-	農村の馬車図。	栄達(印)	(石川脩次)	【裏面】苦小牧と/鶴川間の原野及海辺/昭和十三年十二月/小山栄達画伯揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。紙本着色。
0022	8	0	[色紙帳(大)]	[野口弥太郎揮毫](画)	1	-	1950	9	17	昭和	25	-	浴室の女図。丸い紙に絵を描き色紙に貼り付けている。	y.noguchi	(石川脩次)	【裏面】昭和廿五年九月十七日来泉/洋画家野口弥太郎先生画/登別温泉 梅の家さなえモデル/小糸も同伴/非常二御満悦あり拝受/石川梅洞	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0022	9	0	[色紙帳(大)]	[市川左團次揮毫](画)	1	-	-	-	-	昭和	-	か	曾我五郎図。	左團次(花押)	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	10	0	[色紙帳(大)]	[伊藤東海揮毫](書)	1	-	1935	8	4	昭和	10	-	「満目雲/山俱足/楽」。読みは「満目の雲山、俱(とも)に是れ楽しみなり」。	東海[印・□□之印][印]	(石川脩次)	【裏面】昭和十年八月四日/北海道登別温泉来遊/大阪学書大道社主宰/伊藤東海先生揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	11	0	[色紙帳(大)]	[松平穆堂揮毫](書)	1	-	1931	8	-	昭和	6	-	「月到天心処/風来水面時/一般清意味料/得少人知」。	穆堂[印・松平][印・穆堂]	(石川脩次)	【裏面】昭和六年八月来泉/書家松平穆堂	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	12	0	[色紙帳(大)]	[小西秀葩揮毫](画)	1	-	1935	2	17	昭和	10	-	花魚図。花はナデシコ、魚は黄色の斑紋が描かれているのでアユか。	秀葩[印]	(石川脩次)	【裏面】昭和十年二月十七日来泉/小西秀葩画伯揮毫/於北海道登別温泉	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。絹本著色。
0022	13	0	[色紙帳(大)]	[諸井華畦揮毫](書)	1	-	1925	-	-	大正	14	-	「山入楼中成/好句月来窓/下伴残書」。読みは「山は樓中入りて好句成り、月は窓下に来りて残書を伴う」。	華畦女史	(石川脩次)	【裏面】大正十四年/北海道登別温泉来遊/諸井華畦女史	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	14	0	[色紙帳(大)]	[樋口一郎揮毫](書)	1	-	-	-	-	昭和	26	以前	画(朝鮮人女性の洗濯の図)。川で女性2人が棒を持って洗濯物をたたきながら洗う様子。	一郎[印・一郎]	-	【裏面】朝人之洗濯/創元会樋口一郎氏画/木村邦夫より贈与/昭和廿六年五月五日/石川梅洞	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	15	0	[色紙帳(大)]	[鎧谷抱圓揮毫](画)	1	-	1931	12	-	昭和	6	-	荷物を頭に乗せ川を渡る僧侶の図。	勝彦(印・勝彦)	(石川脩次)	【裏面】昭和六年十二月揮毫/鎧宮(ママ)勝彦画伯	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	16	0	[色紙帳(大)]	[石野窓岳揮毫](書)	1	-	1935	8	4	昭和	10	-	「すゝしやと/くさむらことに/たちよれば/あつさそ/まさる/とこな(つ抜か)の/はな」。和漢朗詠集の詠み人知らずの歌。裏面左下に「窓岳可(か)く」とある。	窓岳(裏面)	(石川脩次)	【裏面】昭和拾年八月四日登別温泉来遊/和歌山県箕島商業学校教授/石野窓岳先生揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	17	0	[色紙帳(大)]	[山木仙籟揮毫](書)	1	-	1935	11	-	昭和	10	-	鼠図。猛禽類の羽を見つめる鼠。	仙籟[印・仙籟]	(石川脩次)	【裏面】昭和十年十一月/和歌県(山抜けカ)/八木仙籟画伯/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0022	18	0	[色紙帳(大)]	[関谷雲崖揮毫](画)	1	-	1931	8	-	昭和	6	-	紅葉谷図。画賛:登別途上景/千尺懸崖渡薛/猿鐵車斜処怯/遊魂是此登別/紅谿即七種霊/泉慰百痕	雲崖[印]	(石川脩次)	【裏面】昭和六年八月/南窓画大家/関谷雲崖/画伯/揮毫/紅葉谷口詩/登別温泉/石川脩次	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。絹本著色。
0022	19	0	[色紙帳(大)]	[実川延若揮毫](俳句)	1	-	1933	3	29	昭和	8	以前	「さ□(壽 すか)る種/命の/延る/瓢かな」。延若	-	-	【裏面】昭和八年三月廿九日到来/東京伊藤晴雨画伯ヨリ贈与/名優延若画並二俳句/在北海道登別温泉/石川脩次	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。裏面の記載によると、石川脩次が直接もらった訳ではない。年月日の記載もあるが、授受した日を思われることから作成年月日とはしない。
0022	20	0	[色紙帳(大)]	[関谷雲崖揮毫](画)	1	-	1931	8	-	昭和	6	-	釣図。画賛「一蓑/一笠/□生/渡/不斗/餡□/不斗/名/蒲/惟三/尺□/風行」。末尾に「為石川梅洞氏」の記載あり。	雲崖[印]	石川梅洞	【裏面】昭和六年八月/来遊/関谷雲崖画伯/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。絹本著色。
0022	21	0	[色紙帳(大)]	[藤本来仙揮毫](画)	1	-	-	-	-	昭和	-	か	山水画(水墨)。	来仙[印][印]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。紙本著色(水墨)。
0022	22	0	[色紙帳(大)]	[水島爾保布揮毫](画)	1	-	1931	1	23	昭和	6	か	柄のある球(もしくはリンゴ)3つを空中で回す曲芸師の図。	爾(押印)	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。紙本著色。
0022	23	0	[色紙帳(大)]	[〔林カ)雅堂揮毫](画)	1	-	-	-	-	昭和	-	か	薔薇に蜂図。	雅堂[印]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。紙本著色。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0022	24	0	[色紙帳(大)]	[(林カ)雅堂揮毫] (画)	1	-	-	-	-	昭和	-	か	花鳥図。	雅堂[印]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。紙本著色。
0022	25	0	[色紙帳(大)]	[五来欣造(素川)揮毫] (俳句)	1	-	1936	7	21	昭和	11	-	「湯に浮ぶ/五色の美人/夏の夢」。	素川	(石川脩次)	【裏面】昭和十一年七月廿壹日来泉/公爵大隈信常閣下全行/早稲田大学教授/五来欣造殿/作句揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	26	0	[色紙帳(大)]	[鈴木洋々子揮毫] (俳句)	1	-	1966	5	4	昭和	41	-	「明け易き/大浴場の/暗きとき」。	洋々子	(石川脩次)	【裏面】鈴木歯医者さん/鈴木洋々子先生/昭和四十一年五月四日来泉	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	27	0	[色紙帳(大)]	[松本姿水揮毫] (画)	1	-	-	-	-	-	-	-	浜辺の家並みと丘陵。	姿水[印]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。紙本著色。
0022	28	0	[色紙帳(大)]	[歌川国峰揮毫] (画)	1	-	-	-	-	-	-	-	花鳥図(梅花図)。	国峰(印)(印)	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。絹本着色。
0022	29	0	[色紙帳(大)]	[木俣曲水揮毫] (書)	1	-	1931	8	20	昭和	6	か	「なくむしの/ひ(悲)とつこ/えにも/きこえぬは/こゝろ／＼(心ごころ)に/ものやかなしき」。	[印・曲][印・水]	(石川脩次)	【裏面】昭和六年八月廿日来遊/書家曲水先生/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	30	0	[色紙帳(大)]	[相澤春洋揮毫](書 1画)	1	-	1934	8	-	昭和	9	か	御簾にから見える女性の絵に歌を添える。「ことの/ねに みねの/まつかせ/かよふらし/いつれの/をよりしらへ/そめけむ」。	春洋[印]	(石川脩次)	【裏面】昭和九年八月 日来遊/書家相澤春洋師揮毫/北海道登別温泉/石川脩次	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。紙本著色。
0022	31	0	[色紙帳(大)]	[林(カ)雅堂揮毫] (画)	1	-	-	-	-	昭和	-	か	薔薇と雀図。	雅堂[印]	(石川脩次)	-	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。紙本著色。
0022	32	0	[色紙帳(大)]	[(石橋カ)玉僊揮毫] (画)	1	-	1932	4	-	昭和	7	以前	花鳥図。	玉僊[印]	-	【裏面】昭和七年四月/椎名君より東京土産/として恵与/石川梅洞	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。石川脩次の書込みによれば直接もらい受けたものではなく、東京土産とある。作成年はもらい受けた年月以前とする。江戸時代の画家に森玉僊もいるが、どちらか不明。絹本着色。
0022	33	0	[色紙帳(大)]	[伊藤晴雨揮毫] (画・地獄谷)	1	-	1931	8	6	昭和	6	-	風景図(地獄谷の図)。	晴雨[印・晴雨]	(石川脩次)	【裏面】昭和六年八月六日来遊/帝国劇場新橋劇場/舞台絵画監督/伊藤晴雨画伯揮毫/登別温泉/石川脩次	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。紙本著色。
0022	34	0	[色紙帳(大)]	[今村嘉吉揮毫] (画)	1	-	1936	中秋 (10)	-	昭和	11	-	馬図。画賛「天高肥馬」。末尾に「昭和十一年中秋」と記す。	杜子[印・今村]	(石川脩次)	【裏面】昭和十一年十月/登別温泉二来駕/陸軍新聞班画家/東京九段偕行社/編集部/陸軍大佐今村嘉吉殿/御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	35	0	[色紙帳(大)]	[遊佐幸平揮毫] (画)	1	-	1937	2	21	昭和	12	-	馬図。画賛「窮亦楽/通亦楽」(※莊子)。末尾に「口外併題」とある。	Y(遊佐幸平)	(石川脩次)	【裏面】昭和十二年二月廿一日/北海道登別温泉二来駕/陸軍少将遊佐幸平閣下/御揮毫/世界的馬術師也/石川脩次拝受	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	36	0	[色紙帳(大)]	[山口長南揮毫] (書)	1	-	1935	3	1	昭和	10	-	「堅忍/不拔」。	山口	(石川脩次)	【裏面】昭和十年三月一日/北海道登別温泉二来遊/大湊要港部司令官/山口海軍少将閣下/御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)、法量幅28.7cm/高さ33.1cm/厚さ9.2cm)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0022	37	0	[色紙帳(大)]	[杉政人揮毫](書)	1	-	1933	8	30	昭和	8	-	「成(カ)以/道」。	政人	(石川脩次)	【裏面】昭和八年八月三十日/北海道登別温泉/第一滝本館二来駕/海軍艦政本部長/海軍中将杉政人閣下/御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)、法量幅28.7cm/高さ33.1cm/厚さ9.2cm)。
0022	38	0	[色紙帳(大)]	[南次郎(豊山)揮毫](書)	1	-	1931	初夏	—	昭和	6	-	「質実/剛健」。末尾に「昭和六年初夏」と記す。	南[印・南次郎][印・豊山]	(石川脩次)	【裏面】昭和六年月 日/北海道登別温泉二/来遊/陸軍大臣/南陸軍大将揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	39	0	[色紙帳(大)]	[高橋真八揮毫](書)	1	-	1933	秋(9)	(13)	昭和	8	-	「人間万事/額上汗」。末尾に「昭和八年秋」と記す。	高橋	(石川脩次)	【裏面】昭和八年九月十三日/登別温泉来遊/陸軍築城本部長/陸軍中将高橋真八閣下揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	40	0	[色紙帳(大)]	[芳賀剛太郎揮毫](書)	1	-	1935	春日	—	昭和乙亥	10	-	「急行無善歩/促柱少和声」。冒頭に「昭和乙亥春日」と記す。	楊園芳賀剛[印・芳賀剛][印・楊園]	(石川脩次)	—	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	41	0	[色紙帳(大)]	[大口喜六(蓊山外史)揮毫]	1	-	1934	夏(9)	(8)	甲戌(昭和)	9	-	花図。右上に「甲戌夏日」と記す。	蓊山外史	(石川脩次)	【裏面】昭和九年九月八日来泉/政友会総務/大口喜六氏揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	42	0	[色紙帳(大)]	[秋山白巖揮毫](書)	1	-	1937	5	25	昭和	12	-	「一夜由天降東/瀛不二峰神/為皇国鎮雪/気此山鍾」。末尾に「富士山」と漢詩の題を書く。	白巖老人[印・隆道][印・白巖]	(石川脩次)	【裏面】昭和十二年五月廿五日/登別温泉二於て揮毫/秋山白巖先生書	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	43	0	[色紙帳(大)]	[内田信也揮毫](書)	1	-	1934	8	22	昭和	9	-	「口(土カ)城無/金石」。	信也[印・内田信也]	(石川脩次)	【裏面】昭和九年八月廿二日/北海道登別温泉二於て/鉄道大臣内田信也閣下/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	44	0	[色紙帳(大)]	[小原直(直堂)揮毫](書)	1	-	1937	孟夏(6)	(27)	昭和丁丑	(12)	-	「以敬事天/則神降」。末尾に「昭和丁丑孟夏」と記す。	直堂	(石川脩次)	【裏面】昭和十二年六月廿七日/北海道登別温泉二於て/御揮毫/元司法大臣小原直閣下書	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	45	0	[色紙帳(大)]	[西尾寿造揮毫](書)	1	-	1941	4	20	昭和	16	-	「至公/無私」。	寿造(花押)	(石川脩次)	【裏面】昭和十六年四月廿日/北海道登別温泉来駕/前支那派派遣軍総司令官/陸軍大将 西尾寿造閣下/御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	46	0	[色紙帳(大)]	[高橋三吉揮毫](書)	1	-	1934	夏(8)	(30)	昭和甲戌	(9)	-	「寿万/阜」。	三吉(花押)	(石川脩次)	【裏面】昭和九年八月三十日/北海道登別温泉二来駕/海軍中将高橋三吉閣下/昭和十一年八月受之 石川脩次/海軍大将聯合艦隊/司令長官二来進	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。高橋三吉(さんきち)が登別温泉に来たのは昭和9年夏だが(本人記載)、石川脩次の書込みによると本資料を受け取ったのは、昭和11年8月で、高橋が陸軍大将に上がった年とのこと。送付されてきたものか。
0022	47	0	[色紙帳(大)]	[(古荘)幹郎揮毫](書)	1	-	1934	2	(21)	昭和	9	-	「有備無患」。末尾に「昭和九年二月」と記す。	幹郎(花押)	(石川脩次)	【裏面】昭和九年二月廿一日/北海道登別温泉来遊/陸軍省参謀本部第一部長/陸軍中将古荘幹郎閣下/御揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。
0022	48	0	[色紙帳(大)]	[永田秀次郎(青嵐)揮毫](俳句)	1	-	1926	5	17	大正	15	-	「月口りて/鷄相/たの/む/野分哉」。	青嵐	(石川脩次)	【裏面】大正十五年五月十七日来泉/前東京市長/永田秀次郎閣下/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0022	49	0	[色紙帳(大)]	[頼母木桂吉(春陽外史)揮毫](書画)	1	-	1934	9	18	昭和	9	-	竹図。画賛「明月清風一/竿竹描書(カ)/口老精神」。	春陽外史	(石川脩次)	【裏面】昭和九年九月十八日/北海道登別温泉ニテ/民政党総務頼母木桂吉殿/揮毫	帳面所収(題箋貼付(ただし題字なし))。
0023	1	0	[短冊帳]	[馬場孤蝶揮毫](短歌)	1	-	1927	8	19	昭和	2	-	「わが恋の思ひ之色之くれなゐに/紅葉しにける出湯の滝」。	孤蝶	(石川脩次)	【裏面】昭和二年八月十九日来泉/馬場孤蝶先生書	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	2	0	[短冊帳]	[小田観蛸揮毫](俳句)		-	1957	10	26	昭和	32	-	「火口湖の大クッタラシ透明を/紺碧にして日の下に満つ」。	観蛸	(石川脩次)	【裏面】昭和卅二年十月廿六日小樽市奥沢町 小田観蛸先生より拝受/石川脩次	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	3	0	[短冊帳]	[長谷川零餘子揮毫](俳句)		-	1924	10	26	大正	13	-	「呪ひの火此の山に見し/紅葉かな」。	零餘子	(石川脩次)	【裏面】大正十三年十月廿六日来泉ノ際作歌揮毫	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	4	0	[短冊帳]	[長谷川零餘子揮毫](俳句)		-	1924	10	26	大正	13	-	「湯瀧白し/紅葉を打って/落ち来る」。	零餘子	(石川脩次)	【裏面】大正十三年十月廿六日/北海道登別温泉来遊	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。絹本着色。
0023	5	0	[短冊帳]	[高浜虚子揮毫](俳句)		-	1943	11	3	昭和	18	(入手)	「噂や 絶えず 二三羽 零れ飛び」。高浜虚子から直接もらい受けたものではないようである。	虚子	(石川脩次カ)	【裏面】昭和十八年十一月三日明治大帝ノ佳辰ニ登別温泉湯元地獄谷、大湯沼/間笹ヶ岱ニ建立サレタル俳聖高浜虚子先生ノ句碑除幕式ニ際シ/本碑設立ニ尽力シタル労ニ対シ虚子先生御揮毫短冊之贈与ヲ受ク/石川脩次	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。作成年月日は、裏面の記載よりもらい受けた年月日とする。
0023	6	0	[短冊帳]	[高浜年尾揮毫](俳句)	1	-	1944	10	—	昭和	19	-	「其のちの 噂聞き度し さくら餅」。	年尾	(石川脩次)	【裏面】昭和十九年十月登別温泉二来遊/俳聖高浜虚子長男 年尾先生揮毫	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	7	0	[短冊帳]	[石田雨園子揮毫](俳句)	1	-	1943	11	3	昭和	18	-	「耕人に会釈してゆく教師かな」。	雨園子	(石川脩次)	【裏面】昭和十八年十一月三日虚子先生除幕式ニ参列サレタル/旭川石田雨園子先生ヨリ揮毫ヲ受ク/石川梅洞	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	8	0	[短冊帳]	[石田雨園子揮毫](俳句)	1	-	1936	2	6	昭和	11	-	「温泉の宿へ 街灯つゞく 深雪かな」。	雨園子	(石川脩次)	【裏面】昭和十一年二月六日来泉揮毫	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	9	0	[短冊帳]	[永田秀次郎(青嵐)揮毫]	1	-	1926	5	17	大正	15	-	「花簪一■(判読不能)墨を流す宵」。	青嵐	(石川脩次)	【裏面】大正十五年五月十七日北海道登別温泉来遊/前東京市長 永田秀次郎閣下	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。絹本着色。
0023	10	0	[短冊帳]	[宝生流第十七世宝生九郎揮毫](俳句)	1	-	1956	6	4	昭和	31	-	「菊人形見に行きし日や秋暮る」。	九郎	(石川脩次)	【裏面】昭和卅一年六月四日室蘭ニ於て開催演能会の為御来道/宝生流第十七世宗家宝生九郎師より揮毫を受く石川脩次	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。石川脩次氏の記載によれば、昭和31年6月4日に室蘭で開催の演能会に来ていた際にとあり、その後登別温泉に宿泊して揮毫を受けたとも考えられるが詳細は不明。
0023	11	0	[短冊帳]	[野上大業揮毫](画)	1	-	1931	5	22	昭和	6	-	下に「菰を着る牡丹の図」を描き、上に南部都都逸「韓信の股をくぐるも時世と時節/踏まれし草にも花が咲く」と小唄「牡丹も亦/こも着て/冬ごもり」を書き添える。	大業(印・大業)	(石川脩次)	【裏面】昭和六年五月廿二日北海道登別温泉来遊/大業画伯揮毫	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0023	12	0	[短冊帳]	[内藤鳴雪揮毫](俳句)	1	-	1933	9	22	昭和	8	(入手)	「夕月や 納屋も 厩も 梅の影」。	鳴雪	-	【裏面】昭和八年九月廿二日入手/内藤鳴雪詠題 夕月や納屋もうまやも梅乃影	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。内藤鳴雪は1926年(大正15年)2月20日に死去しているため、昭和8年9月22日は石川が入手した日と思われる。
0023	13	0	[短冊帳]	[青木郭公揮毫](俳句)	1	-	-	-	-	昭和	-	か	「弾丸売つて 飯食ふ敵や 庭の秋」。	郭公	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	14	0	[短冊帳]	[林博太郎(石亭)揮毫](梅図)	1	-	1924	初秋(8)	(24)	甲子	(大正13)	-	梅図。末尾に「甲子初秋」と記載。	石亭[印・林博][印・石亭]	(石川脩次)	【裏面】大正十三年八月廿四日北海道登別温泉ニテ/伯爵林博太郎閣下筆/軌道会社 石川	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。絹本著色。
0023	15	0	[短冊帳]	[寿々木米若揮毫](俳句)	1	-	1946	7	2	昭和	21	-	「猪狩りをして 村長の もてなしぬ」。	米若	(石川脩次)	【裏面】昭和廿一年七月二日登別温泉来泊/浪曲界之大家寿々木米若氏作句揮毫	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	16	0	[短冊帳]	[寿々木米若揮毫](川柳)	1	-	1946	7	2	昭和	21	か	「道行けば 裸土人の おし(じ)ぎせり」。	米若	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。0023-15に合わせて同日と比定。
0023	17	0	[短冊帳]	[春日井おかめ揮毫](蕪図)	1	-	1951	秋	-	昭和	26	-	蕪図。	春日井 おかめ	(石川脩次)	【裏面】昭和廿六年/秋/来泉/五色■宿/浪花節/春日井/おかめ/筆	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	18	0	[短冊帳]	[春日井おかめ揮毫](朝顔図)	1	-	1951	秋	-	昭和	26	か	朝顔図。	春日井 おかめ	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。0023-17の書込み内容から作成年比定。
0023	19	0	[短冊帳]	[酒井雲(一水)揮毫](富士図)	1	-	1948	8	10	昭和	23		富士図。「この富士口(もか) ほしくわ(※ば)やらふ 取て行き」の語を添える。	一水(印・酒井雲)	(石川脩次)	【裏面】昭和廿三年八月十日登別温泉講演/浪界の重鎮酒井雲師揮毫	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	20	0	[短冊帳]	[関屋貞三郎揮毫](短歌)	1	-	1938	4	16	昭和	13		「樽前の煙は空にかよひつゝ/冬の日は落つ石狩平野」。	□□	(石川脩次)	【裏面】昭和十三年四月十六日/元宮内次官関谷貞三郎閣下御詠尊御揮毫拝受	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	21	0	[短冊帳]	[杉原美代太郎(松城)揮毫](川柳)	1	-	1933	8	1	昭和	8	以降	「地獄谷 弁天拝む 登別」。	松城	(石川脩次)	【裏面】旭川市第七師団長杉原中將閣下揮毫	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	22	0	[短冊帳]	[諸井華畦揮毫](書)	1	-	1925	-	-	(大正)	(14)	か	「福林寿域」。	華畦[印・諸井久楽][印・華畦]	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。0023-23の記載から作成年比定。
0023	23	0	[短冊帳]	[諸井華畦揮毫](書)	1	-	1925	夏	-	乙丑(大正)	(14)	か	「一浴快哉」。表面下段に「乙丑夏日登別/温泉客中書」の記載あり。	華畦女史[印・華][印・畦]	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	24	0	[短冊帳]	[大谷光演(句仏)揮毫](俳句)	1	-	1928	9	23	昭和	3	-	「秋風や 蝦夷もろこしの 蒸加減」。	句仏	(石川脩次)	【裏面】昭和三年九月廿三日退泉/大谷句仏上人揮毫/登別温泉 石川脩次	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	25	0	[短冊帳]	[中村天風(三郎)揮毫](書)	1	-	-	-	-	-	-	-	「君子威徳已(か)衆行」。	(花押)	(石川脩次)	【裏面】中村天風先生書	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	26	0	[短冊帳]	[臼田亜郎揮毫](俳句)	1	-	-	-	-	-	-	-	「をどる／＼湯山の月の 満つる夜乎(読み:かな、か、や等)」。	亜郎	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0023	27	0	[短冊帳]	[富士野鞍馬揮毫] (川柳)	1	-	1955	11	20	昭和	30	-	「丹前に になると知性が ゆるみかけ」。石川氏の書込みから直接もらい受けたものではない。	鞍馬	-	【裏面】昭和三十年十一月廿日室蘭市輪西署森省二殿より拝受/京都 川柳宗匠 富士野鞍馬先生揮毫	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。石川氏の書込みからもらい受けた日を作成年月日とする。
0023	28	0	[短冊帳]	[木俣曲水揮毫](書)	1	-	-	-	-	-	-	-	「白雲に はねうちかはし とふ雁の かけ(か)さへ見ゆる 秋の夜の月」。	曲水[印・曲] [印・水]	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	29	0	[短冊帳]	[伊藤晴雨揮毫](昇龍図)	1	-	-	-	-	-	-	-	昇龍図。	晴雨[印・晴雨]	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	30	0	[短冊帳]	[山野紅蘭揮毫] (書)	1	-	1931	8	9	昭和	6	-	「あさミとり すみわたりたる 大空の ひろきをおのか こゝろともかな」。	徳子(か)[印・山野] [印・徳印]	(石川脩次)	【裏面】昭和六年八月九日登別温泉二来遊/書家 山野紅蘭女史揮毫(印)(印)	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	31	0	[短冊帳]	[植村和堂揮毫] (書・短歌)	1	-	1934	8	-	昭和	9	-	「ものゝふ(婦)か 命をつゆとあらそひし とりてのあとに さくらはなさ(散)く」。冒頭に「五稜廓(郭)にて」とある。	和堂	(石川脩次)	【裏面】昭和九年八月北海道登別温泉二相澤春洋師と共に来遊	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	32	0	[短冊帳]	[池田内観記者(名前不明)揮毫](俳句)	1	-	1924	11	16	大正	13	-	「いつもの林の朴の花の 朴の木」。	すゞ(か)口	(石川脩次)	【裏面】大正十三年十一月十六日/北海道登別温泉ニテ/池田内観記者揮毫	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。絹本着色。
0023	33	0	[短冊帳]	[田畑比古揮毫](俳句)	1	-	-	-	-	-	-	-	「鷹の威は 金環もてる 目にぞある」。	比古	(石川脩次)	【裏面】俳人 ホトギス全人 京都田畑比古先生書	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	34	0	[短冊帳]	[田中塊堂揮毫](書)	1	-	1935	8	4	昭和	10	-	「天の川 とほきわたりに あらねとも きみかふなてハ としにこそまで(天の川遠き渡りはなけれども君が舟出は年にこそ待て)」。		(石川脩次)	【裏面】昭和十年八月四日登別温泉来遊/大阪女子商業学校講師 田中塊堂先生揮毫/塊堂かく	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	35	0	[短冊帳]	[秦豊助(嘯月)揮毫](俳句)	1	-	1924	8	23	大正	13	-	「夏寒し 玉走り沸く 地獄谷」。	嘯月	(石川脩次)	【裏面】秦豊助通信次官書/大正十三年八月廿三日於北海道登別温泉	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	36	0	[短冊帳]	[前田普羅(忠吉)揮毫](俳句)	1	-	1931	6	5	昭和	6	-	「山姥の里の わさびの 花ざかり」。	普羅	(石川脩次)	【裏面】昭和六年六月五日来泉 俳句宗匠/札幌市北一条西五丁目 前田普羅氏揮毫	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	37	0	[短冊帳]	[平山蘆江揮毫](都都逸)	1	-	1942	6	30	壬午	(昭和17)	-	自身作の都都逸「酒のあひ手に あそびの相手 苦労しとげて 茶の相手」を書き、下に洋食器(茶器)の絵を添える。下部に「壬午夏 平山蘆江」の記載あり。	平山蘆江	(石川脩次)	【裏面】昭和十七年六月三十日来泉/文豪 平山蘆江先生御揮毫	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	38	0	[短冊帳]	[中村春堂揮毫] (書)	1	-	-	-	-	-	-	-	「秋はいぬ かせに木のはゝ ちりハてゝ やまさひしかる 冬は来にけり」。	春堂	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	39	0	[短冊帳]	[小田観蛸揮毫](短歌)	1	-	-	-	-	-	-	-	「クッタラ湖 海拔高く 蒼空に さゝくる壺 は 千古変らず」。	観蛸	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	40	0	[短冊帳]	[芳賀剛太郎(楊園)揮毫](書)	1	-	1935	春	-	昭和乙亥	(10)	-	「耐雪梅花麗経霜楓葉丹」。西郷隆盛の漢詩。表面右上に作者芳賀の名「剛」の印。	芳賀 剛[印・芳賀] [印・楊園]	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	41	0	[短冊帳]	[野上大業揮毫](昇鯉図)	1	-	-	-	-	-	-	-	昇鯉図。	大業[印・大業]	(石川脩次)	-	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0023	42	0	[短冊帳]	[永田秀次郎(青嵐)揮毫](俳句)	1	-	1926	5	17	大正	15	—	「春炬燵 芝居の夢の さめにけり」。	青嵐	(石川脩次)	【裏面】大正十五年五月十七日北海道登別温泉/前東京市長 永田秀次郎閣下	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。絹本著色。
0023	43	0	[短冊帳]	[石田雨園子揮毫](俳句)	1	-	1943	11	3	昭和	18	—	「郭公や 寺は旦の炉を 焚ける」。	雨園子	(石川脩次)	【裏面】昭和十八年十一月三日虚子先生除幕式二先生ノ代人トシテ/列席サレタル石田雨園子氏ヨリ揮毫ヲ受ク梅洞	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	44	0	[短冊帳]	[青木郭公揮毫](俳句)	1	-	—	—	—	—	—	—	「肉弾の 物心不二よ 月玲瓏」。	郭公	(石川脩次)	—	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。
0023	45	0	[短冊帳]	[口山人揮毫]	1	-	—	—	—	—	—	—	山水画。 画賛: 夏日水楼	口山人[印]	(石川脩次)	—	帳面一括(題箋には記載なし、裏表紙見返しの方には「北海道登別温泉/石川脩次」の記載あり)。紙本著色。
0024	0	0	色紙	[脇水鉄五郎(寿山人)揮毫](書)	1	-	1931	8	-	昭和	6	—	「平生/一片心」。孟浩然の詩。	寿山人	(石川脩次)	【裏面】昭和六年八月 日来遊/東京帝国大学/名誉教授 脇水博士/号 寿山人/天然記念物指定委員	—
0025	0	0	色紙	[本多熊太郎(桂城)揮毫]	1	-	1934	7	25	昭和	9	—	「踏破千山万/水間(カ)見世局/幾変遷」。	書懷 桂城	(石川脩次)	【裏面】昭和九年七月廿五日/北海道登別温泉来遊/前全権大使/本多熊太郎氏揮毫	—
0026	0	0	色紙	[千葉郁治(所南)揮毫](書)	1	-	1933	冬(12)	(3)	癸酉	(昭和8)	—	「縦横一筆/掃千軍」。末尾に「癸酉冬日」と記す。	所南山樵(印・所)(印・南)	(石川脩次)	【裏面】昭和八年十二月三日来遊/於北海道登別温泉/第一滝本館/陸軍糧秣本廠長/陸軍主計中将千葉郁治閣下/御揮毫	—
0027	0	0	色紙	[菊野(海軍少将)揮毫](書)	1	-	1935	9	6	昭和	10	—	「山紫/水明」。	有(カ)芳	(石川脩次)	【裏面】昭和十年九月六日/第四艦隊室蘭入港二付/登別温泉二来駕/海軍少将菊野閣下/御揮毫	—
0028	0	0	色紙	[五来欣造(素川)揮毫]	1	-	1936	7	21	昭和	11	—	「□□さめに(カ)/月夜もまた(カ)ぬ/旧都かな」。	素川	(石川脩次)	【裏面】昭和十一年七月廿壹日来泉公爵大隈信常閣下/全行/早稻田大学教授/文学博士/五来欣造殿/作句揮毫	—
0029	0	0	色紙	[羅集誼揮毫](書)	1	-	1937	2	27	昭和	12	—	「群賢/雲集」。	羅 集誼	石川先生	【裏面】昭和十二年二月廿七日来泉/中華民国駐横浜総領事館副領事/駐函館弁事羅集誼氏揮毫/登別温泉石川脩次	絹本墨書。
0030	0	0	色紙	[王允郷揮毫]	1	-	1944	秋(9)	(12)	甲申	(昭和19)	—	「羨君書法/高明」。	王 允郷	石川先生	【裏面】昭和十九年九月十二日/登別温泉第一滝本館二来駕/満州国大使王允郷閣下/揮毫	—
0031	0	0	色紙	[中山蕃(蘇光)揮毫](書)	1	-	1937	2	22	昭和	12	—	「至誠/健康」。	中山蘇光	(石川脩次)	【裏面】昭和十二年二月廿二日/陸軍省軍事補充部本部長/陸軍中将/中山蕃閣下/御揮毫/登別温泉 石川脩次	—

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0032	0	0	色紙	[野田蘭蔵揮毫] (書)	1	－	1940	12	14	昭和	15	－	「清風/悠々」。	蘭蔵	(石川脩次)	【裏面】昭和十五年十二月十四日揮毫/鎌倉市満鉄嘱託文学博士 野田蘭蔵閣下/近衛文麿閣下陰之人/満州国建設之功劳者/大同ト云フ年号ヲツケタ人/ナリト云ヒ伝フ/新体制講演ニ来蘭ノタメ/登別温泉ニ一泊	－
0033	0	0	色紙	[山本六助(呑洲)揮毫](書)	1	－	1936	春(2)	(20)	丙子	(昭和11)	－	「天空/海闊」。末尾に「丙子春日」と記す。	呑洲	(石川脩次)	【裏面】昭和十一年二月廿日来泉/衆議院総選挙ノ日/海軍大佐山本六助殿/御揮毫	－
0034	0	0	色紙	[佐藤質揮毫](書)	1	－	1945	4	12	昭和	20	－	「酒氣/応声」。	中将佐藤	(石川脩次)	【裏面】昭和二十年四月十二日/登別温泉第一滝本館御来泊/前中支南支司令官/陸軍中将佐藤質閣下/御揮毫	－
0035	0	0	色紙	[前田普羅(忠吉)揮毫](俳句)	1	－	1931	6	5	昭和	6	－	「春(カ)霧の中に/あがるや温泉の煙」。	普羅	(石川脩次)	【裏面】昭和六年六月来遊/宗匠前田普羅氏/作歌揮毫/登別温泉 石川脩(ママ)	－
0036	0	0	色紙	[矢部潤二揮毫] (書)	1	－	1936	10	9	昭和	11	－	「不責人小過不念/人陰私不発人旧/悪三者以養徳亦/以可遠害」。『菜根譚』にある語。	陸軍主計監矢部潤二	(石川脩次)	【裏面】昭和十一年十月九日御揮毫/陸軍被服廠長/陸軍主計監矢部潤二閣下/登別温泉 石川脩次	－
0037	0	0	色紙	[河崎なつ揮毫] (書・禅語)	1	－	1947	5	3	昭和	22	以降	「きに入らぬ/かぜも/あらふに/柳かな」。	なつ女	(石川脩次)	【裏面】参議院議員河崎なつの参議院議員在任期間は昭和/川崙(ママ)なつ女22(1947)年5月3日～昭和28(1953)年5月2日であることから作成年月日比定。	－
0038	0	0	色紙	[健堂揮毫](花鳥図)	1	－	1931	8	10	昭和	6	－	梅花の水墨画。左下に「昭和第六盛夏/健堂生画[印][印]」と記す。	健堂[印・健][印・堂]	(石川脩次)	【裏面】昭和六年八月十日来泉/東京市日本橋区浜町二ノ十七/書家山野紅蘭女史ト全行	－
0039	0	0	色紙	[田中塊堂揮毫](書)	1	－	1935	8	4	昭和	10	－	「半日/閑」。	塊堂[印]	(石川脩次)	【裏面】昭和十年八月四日/北海道登別温泉来遊/大阪女子商業学校講師/田中塊堂先生/揮毫	－
0040	0	0	色紙	[小浜関邨揮毫] (画)	1	－	1938	11	11	昭和	13	－	山水画。	関邨	(石川脩次)	【裏面】昭和十三年十一月十一日/登別温泉ニ於て/旭川小浜関邨画伯/揮毫	紙本著色。
0041	0	0	色紙	[前田波州揮毫] (画)	1	－	1931	12	－	昭和	6	－	風景図(山間の桜・松の奥に五重塔が見える)。	波洲[印]	(石川脩次)	【裏面】昭和六年十二月於室蘭/前田波洲画伯/揮毫	石川氏の書込みにより、室蘭で受け取ったようである。紙本著色。
0042	0	0	色紙	[董仙揮毫](画)	1	－	－	－	－	昭和		か	牡丹図	董仙[印]	(石川脩次)	－	絹本著色。裏面中央に「田中美風氏 短歌俳句絵画の人」と見出しのついた新聞紙片貼付(詩想画囊を肥やすため登別・カルルス等に来たことなどを記す)。ただし、署名する董仙と同一人物かは不明。
0043	0	0	色紙	[邑井貞吉揮毫] (画)	1	－	－	－	－	昭和	－	か	達磨図	邑井貞吉[印・貞]	(石川脩次)	－	－

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0044	0	0	色紙	[斉藤弓弦(亀治)揮毫](おかめ図)	1	—	—	—	—	昭和	—	か	おかめ図	弓弦[印・弓弦]	(石川脩次)	—	紙本著色。
0045	0	0	色紙	[(山田カ)耕雲揮毫](画)	1	—	1934	元旦	—	甲戌(昭和9)	—	か	風景画。賛「青山十畝白/流水一春香」。右上の賛の後に「甲戌元旦試筆」と記載。	耕雲道人[印][印]	(石川脩次)	—	紙本著色。
0046	0	0	色紙	[鹿江三郎(鹿峰)揮毫](書)	1	—	—	—	—	昭和	—	か	「天壤/無窮」。	鹿峰[印・号鹿峰][印・鹿江三郎]	(石川脩次)	—	—
0047	0	0	色紙	[吉田初三郎揮毫](画)	1	—	—	—	—	大正・昭和	—	か	山図	初三郎(花押・よしだ)	(石川脩次)	—	—
0048	0	0	色紙	[(岸野カ)海雪揮毫](画・川柳)	1	—	—	—	—	大正・昭和	—	か	硫黄取りの図。賛「硫黄取/地獄の/沙汰を/儲け居る」。	海雪[印・海][印・雪]	(石川脩次)	—	—
0049	0	0	掛軸	[本田熊太郎(桂城)揮毫](書)	1	—	—	—	—	—	—	—	「古人居治不忘乱外患生時有/内夏今日豈無兵馬警閑口煎焰口春秋」。末尾に「石川君属」と記載。	桂城	(石川脩次)	端書「全権大使本田熊太郎閣下揮毫」	—
0050	0	0	掛軸	[中島虎吉揮毫](書)	1	—	—	—	—	—	—	—	「成名毎在窮苦日敗事/多因得志(※意にも見える)時」。	中島中将	(石川脩次)	端書「陸軍中将中島虎吉閣下 昭和拾年九月三十日来泉/岐阜県大垣出身 隣県ノ宣ヲ以テ特ニ御揮毫」	—
0051	0	0	掛軸	[水野鍊太郎(香堂)揮毫](書)	1	—	—	夏	—	(大正)	乙丑(14)	—	「満山嵐気晩相催洗得行程旬日/□□載重来登別路雲煙依旧/送源来」。末尾に「乙丑夏日登別温泉即喰」と記載。	香堂[印・水野鍊印][印・香堂]	(石川脩次)	端書「前内務大臣水野鍊太郎書 北海道登別温泉之詩」	—
0052	0	0	掛軸	[堀内信水揮毫](書)	1	—	—	—	—	—	—	—	「地獄にも/高く笑ふや 伊蘇つゝし」。末尾に「於地獄谷」と記載。	信水[印・堀内文印][印・信水]	(石川脩次)	端書「堀内陸軍中将書 登別温泉地獄谷之歌」	—
0053	0	0	掛軸	[安保清種揮毫](書)	1	—	—	—	—	—	—	—	「静観万類無人為」。	安保清種[印][印]	(石川脩次)	端書「横須賀鎮守府司令官長海軍大将安保清種閣下書」	—
0054	0	0	掛軸	[大口喜六(蓊山外史)揮毫](書画)	1	—	—	夏	—	(昭和)	甲戌(9)	か	観音画。賛「本来□/妙身観多(カ)在□々/一□三□□晴面目尽」。右端に「甲戌夏日」と記載。	蓊山外史	(石川脩次)	端書「観音並讃 元大蔵次官政友会総務/大口蓊山(喜六)揮毫」	—
0055	0	0	掛軸	[相澤春洋揮毫](書)	1	—	—	—	—	—	—	—	「いさうたへ われたちまはむ/ぬはたまのこよひの/月夜 いねらるへしや」。	[印・春洋□□]	(石川脩次)	端書「和歌 相澤春洋先生書」(墨筆)	—
0056	0	0	掛軸	[林玉泉揮毫](画)	1	—	—	—	—	—	—	—	山水画。	玉泉[印・玉泉]	(石川脩次)	—	絹本着色。
0057	0	0	掛軸	[谷寿夫揮毫](書)	1	—	1936	9	29	昭和	11	—	「正道直行竭忠尽智」。	寿夫	(石川脩次)	端書「昭和十一年九月廿九日登別温泉来遊/第六師団陸軍中将谷寿夫閣下御揮毫」	—
0058	0	0	掛軸	[大木遠吉(天籟)揮毫](書)	1	—	1926	—	—	大正	15	以前	「平原秋樹色沙麗/暮鐘声」。	天籟[印・大木遠吉][印・天籟]	(石川脩次)	端書「伯爵大木遠吉閣下	大木の没年(大正15(1926)年2月14日)より作成年比定。
0059	0	0	掛軸	[鈴木莊六揮毫](書)	1	—	1926	8	—	大正	15	—	「軽佻浮華不能□□々□世事荒□/嗚呼何以对明詔修養兵(カ)存剣達人」。末尾に「拝 聖詔 誌感」「為石川君」の記載あり。	莊六	(石川脩次)	端書「陸軍参謀総長/陸軍大将鈴木莊六閣下書 大正十五年八月北海道登別温泉来遊」	—
0060	0	0	掛軸	[馬場孤蝶揮毫](書画)	1	—	—	—	—	—	—	—	画(三味線の図)。賛「やるせなの 夕やな/たれにともなき ふみかきて/幾ひらを 風に散らせば/いづ方へ 捲て行くらん/折から之花吹雪」。	孤蝶[印]	(石川脩次)	端書「文豪 馬場孤蝶氏作歌揮毫」(墨筆)	—
0061	0	0	掛軸	[千葉郁治(清風莊主人、所南)揮毫](書)	1	—	—	—	—	—	—	—	「人代興亡問碧翁史編忍飽蠹魚蟲/読書予似爛柯閣上下千季寸燭中」。末尾に「夜読書」「石川賢(カ)堂(カ)清□」の記載あり。右下に押印(「所南画印」)。	清風莊主人[印・□郁印□][印・清風莊之人]	(石川脩次)	端書「陸軍主計総監千葉閣下揮毫」	—

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0062	0	0	掛軸	[中島今朝吾揮毫](書)	1	—	1936	秋(9)	(8)	昭和	丙子(11)	—	「誠是我国祖宗惟神之道」。末尾に「昭和丙子秋」の記載あり。	中将 中島今	(石川脩次)	端書「昭和十一年九月八日登別温泉来駕御揮毫/憲兵司令官陸軍中将中島今朝治(ママ)閣下」	—
0063	0	0	掛軸	[八代六郎(城山)揮毫](書)	1	—	1916	秋	—	大正	丙辰(5)	—	「怪得香魂長入夢/三世骨肉是梅花」。末尾に「大正丙辰秋」と記載あり。	城山[印・八代六郎口口][印・城山]	(石川脩次)	端書「八代海軍大將書」	—
0064	0	0	掛軸	[河野董吾揮毫]	1	—	1932	4	—	昭和	7	—	「湯のたにをこむる朝きり やま媛の/ゆあミする間の戸はりめくかな」。右端に「石川氏の再ひ需めらるゝまゝに 山霊来(か)浴のころを」と記す。	中将 董吾(花押)	(石川脩次)	端書「昭和七年四月登別温泉二来遊/大湊要港部司令官/海軍少将 河野董吾閣下」	—
0065	0	0	掛軸	[千葉郁治(清風莊主人、所南)揮毫]	1	—	1933	12	3	昭和	8	—	「一枝高出一枚低竹外花開数点富人/在雪中兼待月好将之白入新影」。末尾に「雪中探梅」の記載あり。	清風莊主人[印・千葉郁治](印・所南)	(石川脩次)	端書「昭和八年十二月三日来泉 陸軍糧秣本廠長 陸軍主計総監千葉郁治閣下 拝受石川脩次」	—
0066	0	0	掛軸	[出淵勝次揮毫](書)	1	—	1934	10	3	昭和	9	—	「天地寂然不動」。	出淵老樅	(石川脩次)	端書「昭和九年十月三日来泉 全權大使出淵閣下揮毫 石川脩次」	—
0067	0	0	掛軸	[中村良三揮毫](書)	1	—	1934	9	1	昭和	9	—	「神仙開天扉」。	良三	(石川脩次)	端書「昭和九年九月一日登別温泉来遊 海軍大將中村良三閣下揮毫 石川脩次」	—
0068	0	0	掛軸	[杉坂悌二郎(羽岳)揮毫](書)	1	—	1936	4	13	(昭和)	丙子(11)	—	「温泉一道器潺口高閣疎林/客夢間如使唐皇来浴此応之 風趣(か)勝口山」。末尾に「丙子初春遊登別口」の記載あり。	羽岳	(石川脩次)	端書「昭和十一年四月十三日登別温泉二御来遊 大湊要港部司令官 海軍中将 杉坂悌二郎閣下書」	—
0069	0	0	掛軸	[古荘幹郎(雅山)揮毫](書)	1	—	1936	9	29	昭和	丙子(11)	—	「処正居中形神以和」。末尾に「昭和丙子初秋」と記載。	雅山(花押)	(石川脩次)	端書「昭和十一年九月廿九日登別温泉にて御揮毫 航空本部長 陸軍中将古荘幹郎閣下」	—
0070	0	0	掛軸	[三宅俊雄(楠堂)揮毫](書)	1	—	1936	初秋(9)	(29)	昭和	丙子(11)	—	「朝(か)誉庭(か)口眩唯時運至誠/奉公是人 生」。末尾に「昭和丙子初秋」と記載。	楠堂	(石川脩次)	端書「昭和十一年九月廿九日登別温泉二来遊 戸山学校長陸軍少将三宅俊雄閣下揮毫」	—
0071	0	0	掛軸	[有地品之允(一葦)揮毫](書画)	1	—	1916	10	—	大正	5	—	画(達磨大師の図)。賛「剣太刀捨て/浮世にすみ(※墨)/ころも(衣)/払子て文字の/かきやうもなし」。末尾に「大正五年秋十月」と記載。	一葦老人[印・有地信正][印・一葦居士]	(石川脩次)	端書「男爵有地海軍中将書並画」	—
0072	0	0	掛軸	[河東碧梧桐揮毫](俳句)	1	—	—	—	—	昭和	—	—	「温泉烟 風 朝ハ なだれて顔に 吹き晴るゝ」。本紙上部に「登別温泉」と記載。	碧[印]	(石川脩次)	端書「俳人碧梧桐 書 登別温泉之歌」	—
0073	0	0	掛軸	[佐藤昌介(琢堂)揮毫](書)	1	—	1935	夏	—	(昭和)	乙亥(10)	—	「知法思国」。末尾に「乙亥之夏」と記載。	琢堂[印][印]	(石川脩次)	端書「元北海道大学総長 佐藤昌介閣下揮毫」	—
0074	0	0	掛軸	[馬場孤蝶揮毫](書画)	1	—	—	—	—	—	—	—	画(帆船の図)。賛「滄浪の濁るもよしや/行水に/鷗之如く身をまかしてん」。	孤蝶[印]	(石川脩次)	端書「文豪馬場孤蝶書 和歌」	—
0075	0	0	掛軸	[臼田亜郎揮毫](俳句)	1	—	1936	8	31	昭和	11	—	「地獄とな 湯けぶりすゝき 吹きなびけ」。	亜浪[印]	(石川脩次)	端書「昭和十一年八月三十一日来泉 俳匠臼田亜浪先生作句 揮毫」	—

資料No.	子No.	孫No.	資料名1	資料名2	数量	所収点数	西暦	月	日	和暦	和暦年	不確定	内容	作成者	使用者	石川による記載	備考
0076	0	0	掛軸	[下村宏(海南)揮毫](短歌)	1	—	1933	7	29	昭和	8	—	「大蝦夷の 荒磯(あらそ)の はまのアイヌ 小屋 かきねに匂ふ はまなすの花」。	海南	(石川脩次)	端書「東京朝日新聞副社長法学博士下村海南先生書 昭和八年七月廿九日来泉」	—
0077	0	0	掛軸	[水島爾保布・宮尾しげを・池田栄治(栄一治)・清水対岳坊揮毫](漫画寄書)	1	—	—	—	—	(昭和)	—	か	漫画家5人による寄せ書き。画(右上に鳥居、そこから落ちる滝、湯につかる老若男女(湯沢神社下の湯の瀧の様子か))。賛「海内第一泉/一日増百貫」。	爾(花押)・しげを[印]・永一治(花押)・対岳坊・帆(印)	(石川脩次)	端書「北海之泉都/登別温泉の漫画/帝都漫画家/清水対岳坊/外四画伯」	紙本著色。
0078	0	0	掛軸	[永岡秀一揮毫](書)	1	—	1936	10	23	昭和	11	—	「無心高(カ)入自然之妙」。	秀一	(石川脩次)	端書「昭和十一年十月廿三日北海道登別温泉にて御揮毫/東北 北海道樺太 対抗柔道試合審判 九段 永岡秀一殿」	—
0079	0	0	掛軸	[安保清種揮毫](画)	1	—	—	—	—	昭和	—	か	梅松図	清種[印][印]	(石川脩次)	端書「横須賀鎮守府司令長官海軍大将安保清種閣下画梅松」	—
0080	0	0	掛軸	[高橋真八・松崎直口(不明)揮毫](書画)	1	—	—	—	—	昭和	—	か	高橋真八による画と松崎海軍少将による賛。万里の長城図。高橋の署名の前に「昭和八年秋於熱河省古北口」と記す。賛「来過万里長城跡/□□雄□域慨留(カ)」。	高橋工兵大佐[印・曙堂]・海軍少将松崎直[印・直臣印]	(石川脩次)	端書「万里の長城 高橋工兵大佐画 讚 函館要塞司令官/松崎海軍少将書」	紙本著色。
0081	0	0	掛軸	[大町桂月揮毫](歌)	1	—	1921	夏	—	大正	10	—	「東湯の瀧 西水の瀧/よろつ揃うた登別/万寿薬湯 薬も利くか/瀧の清水も 肩をもむ」。末尾に「大正十年夏登別にて」と記載あり。	桂月[印・大町][印・桂月]	(石川脩次)	—	絹本墨書。
0082	0	0	掛軸	[松川敏胤(仙南)揮毫](書)	1	—	1921	—	—	大正	10	か	「万岳叫風秋景冷夕陽在口長人影/一淡遥口錦霞登別有霊泉神秘境」。末尾に「宿登別温泉」と記載。	仙南 敏[印][印]	(石川脩次)	端書「松川陸軍大将書 登別温泉之詩」	0001-1と同時期であれば大正10年10月17日。